平成25年度

中部環境パートナーシップオフィス

運営業務　年間報告書

平成26年３月31日

特定非営利活動法人　ボランタリーネイバーズ

目次

１．平成 25 年度　達成状況と課題 2

(1)平成 25 年度事業目標 2

(2)達成状況と課題 2

２．平成 25 年度　事業方針と事業領域、事業構成 2

(1)平成 25 年度　事業方針 2

(2)平成 25 年度　事業領域と事業構成 3

(3)平成 25 年度　主な業務報告 4

３．平成 24～26 年度（中期運営業務計画）事業目標と達成度 8

(1)平成 24～26 年度　目標 8

(2)達成状況と成果 8

４．平成 25 年度業務報告 14

(1)中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等 14

(2)中部地方環境事務所との協働による事業実施 17

(3)拠点間連携による地域内の中間支援機能強化 51

(4)環境教育等促進法の支援 52

(5)Web サイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務 53

(6)地元の様々な主体が交流する機会の提供 60

(7)施設の維持・管理 62

(8)業務実施計画の作成 65

(9)その他 65

１．平成 25 年度　達成状況と課題

(1)平成 25 年度事業目標

管轄内の協働に関する現況を把握し、国と地域が協働して支援すべき協働事業の検証を行う。その過程において、管轄内のステークホルダーとの関係性を広げ、深める。

(2)達成状況と課題

平成 25 年度は、環境省の「協働取組推進事業」「ESD 人材育成事業」を実施することにより、中部地域の協働取組、ESD のポテンシャルを把握することができた。国と地域の協働による協働取組の支援を行うことができた。

協働取組推進事業については、事業目標を達成するために多様なステークホルダーの参画を得て、特に基礎自治体や地域の事業者との関係性を構築することができた。EPO は協働取組 3 団体に伴走し、関係性の可視化など協働によって生み出される効果を把握した。ステークホルダーのモチベーションを維持し、明確な役割分担をしつつ持ち寄る仕組み、関係性をいかに維持するかが課題であった。ESD 人材育成事業については、中部 7 県で本事業を推進する「形成推進委員会」を設置し、中部 7 県の ESD に関するステークホルダーに参画いただき、事業を進めた。また各県で本事業の ESD 授業を実証する学校を取り巻く地域のステークホルダーに参画いただき、地域のオーナーシップによる事業実施を行うことができた。課題は、地域で ESD 推進を担う主体が継続的に活動できる環境をいかにつくるかである。モデル事業として終わるのではなく、持続する仕組みが必要である。

目標にある、ステークホルダーとの関係性を「広げ」という観点の達成はできてきているが、「深める」という部分をどう作り上げるかについて、EPO の機能を活用した国の機関としてすべき役割の整理を行い、次年度の業務内容の構成を検討する。

２．平成 25 年度　事業方針と事業領域、事業構成

(1)平成 25 年度　事業方針

今年度は下記事業方針に基づき、事業領域を設定し、業務を実施した。

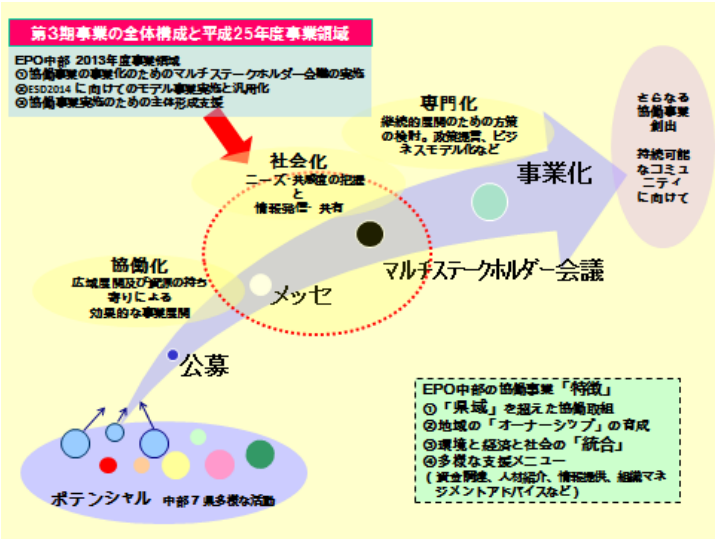
＊利用価値のある施設サービスを提供する。
＊協働に関する情報を収集し提供する。
＊ESD の認知度を高め、多様な主体の協働による ESD 実践が活性化するため主体形成、人材育成等の支援を行う。
＊協働事業に関する情報や経験を交流する「つながる場」を創出する。
＊地域の多様な主体の、資源（人材・資金等）の持ち寄りによる協働事業が実践されるための支援を行う。
＊協働事業の事業化を可能にするための、ステークホルダーとの対話の機会を設ける。
＊「協働」の専門家による EPO 中部運営及び事業の質の向上を図る会議体を設置し、会議を実施する。
＊全国で取り組むべき課題に対して、全国 EPO ネットワークと連携して取り組む。

(2)平成 25 年度　事業領域と事業構成

事業領域は、「協働事業の事業化のためのマルチステークホルダー会議の実施」「ESD2014 に向けてのモデル事業実施と汎用化」「協働事業実施のための主体形成支援」とし、さらに事業構成、事業内容を検討し、業務実施に至った。

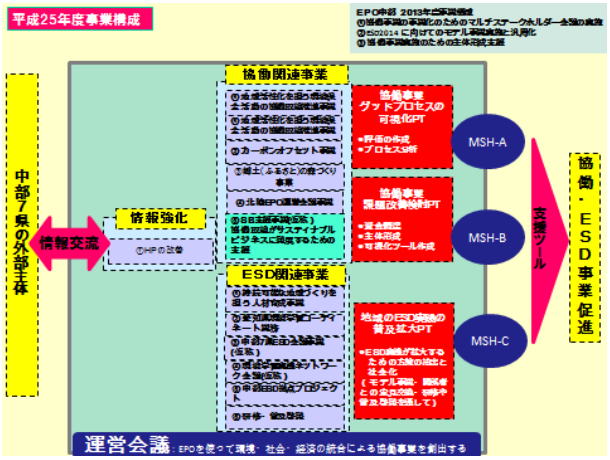
３ケ年の目標である「事業化」に向けて、昨年度抽出した協働取組の課題の改善のための「マルチステークホルダー会議」において対話を行うことを主としつつ、地域に根付いた「協働」事業、「ESD」事業に関わりながら、現場の関係性づくりに直面し、地域のオーナーシップの形成、資金調達、組織基盤についての課題の深堀をし、「マルチステークホルダー会議」のための情報収集、論点整理をした。

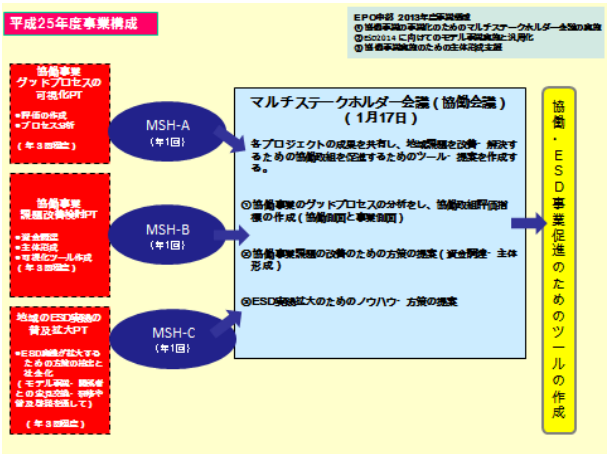
図１.第３期事業の全体構成と平成 25 年度事業構成



事業については、「情報強化」「協働関連事業」「ESD 関連事業」と 3 つに構成し、それぞれにいくつかの事業を企てた。また各事業でステークホルダーダイアログを行い、1 月にその集大成となるマルチステークホルダー会議を行うこととした。

図２.平成 25 年度事業構成





(3)平成 25 年度　主な業務報告

①協働事業

基本的に下記の 5 事業の支援、伴走を中心業務とし、協働取組のプロセスの見える化及び協働取組の課題を抽出、課題改善のための プロジェクトを設置し、第 3 期の目標である「協働の事業化」を可能にする仕組み、環境づくりについて検討した。

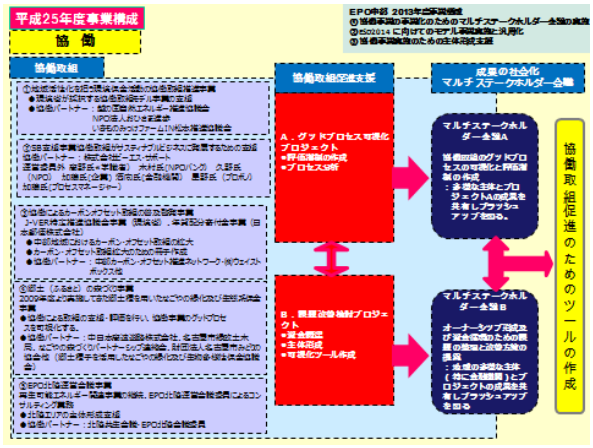


図 3 .平成 25 年度協働事業

〈支援伴走した協働事業〉

＊地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

＊SB 支援事業協働取組がサステナブルビジネスに　発展するための支援

＊協働によるカーボン・オフセット取組の普及啓発事業

＊郷土（ふるさと）の森づくり事業

＊EPO 北陸運営会議事業

〈設置したプロジェクト〉

＊グッドプロセス可視化プロジェクト

＊課題改善検討プロジェクト

それぞれのプロジェクトにおいて、マルチステークホルダー会議を実施した。グッドプロセス可視化プロジェクトは、主に協働取組の「評価指標」の作成とプロセスにおける分析方法について協議をした。結果、協働取組、サステナブルビジネスにおいては、「公共性」「経済性」、「社会的価値」「経済的価値」という 2 軸での評価が必要であること。そしてその 2 軸が対立するものではなく、「融合」を可能にする「プロセス分析」と「指標づくり」が必要である、と話された。課題改善検討プロジェクトは、「資金調達」「主体形成」「可視化ツール」の作成について協議をした。資金調達については、商品、サービス等の、社会的価値＋経済的価値による適正価格の検討が必須であり、資金調達は、公共性、共感を得る事業でないと選択の幅が広がらない、多様な資金調達策は把握し、事業・組織の発展段階に応じて資金調達先を選ぶこと、それ以前に将来を見据えた形での事業計画、経営計画を立てることが必須である、と意見を交わした。

また、地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業には、地域支援事務局を設置し、採択された 3 団体に伴走しながら、事業進捗の把握、協働取組の課題、関係性構築のプロセス等の可視化を行い、可視化ツールを作成した。※別添資料 1「協働事業可視化ツール」参照

〈マルチステークホルダーダイアログ～協働〉

協働をテーマに２つのダイアログを行い、ダイアログ１「組織を強くする、地域を巻き込む」とダイアログ２「資金をどう調達するか」のテーマで対話をした。

ダイアログ１は論点を、「地域を巻き込むために、目的、ビジョンをどうやって共有するか」に設定し、ビジョンをいかにパブリックなものにするか、地域の人の困りごとに対して、自分たちの言葉でどうわかりやすく伝えるか、協働する際に、自身の活動と相手の状況、プロセスを見据えてどのような関係性を結ぶかという視点が重要である、自身の組織が確立していないと協働はできない、といった意見を交わした。いかに、「公共性」を帯びる取組に成熟させるか、が話し合いの肝であった。

ダイアログ２は論点を、「本当に資金調達が課題なのか。資金があればその事業者は本当に自立するのか」とした。協議においては、あきらめないでやりきる志、夢、理念は最大の経営資源であり、そのもとでビジョン、未来解、事業の経済性を明確にすること、事業や組織の段階に応じた資金調達方法があること、ソーシャルビジネスとして自立するには融資という資金調達が必要になること、事業を一緒に育てる「関係性」を金融機関や行政を交えて創りだすこと、かりもの競争を可能にする場づくりが重要であること、といった内容を共有した。

〈平成 26 年度事業方針について～協働取組〉

上記を踏まえて、次年度 EPO が実施すべき事業の方針（案）を立て、運営会議にて協議した。

EPO 中部 2014 事業方針（案）
＊「事業化」のイメージを明確にする。（どのような状況にあると「事業化した」と言えるのか）
＊公共性と経済性を軸にした協働取組事業化のための指標づくり。
＊より公共性を帯びるよう、多様な主体の共感、理解、参加を可能にするサービスづくり。

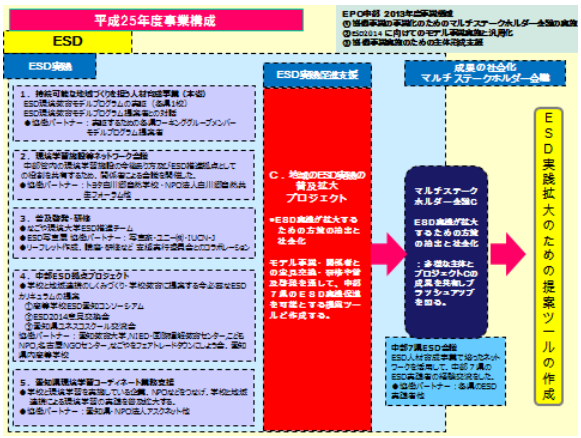
委員からは、「事業化がイメージしにくい、協働、事業化の概念を整理した方がよい」「公共性については自治体の方のアドバイスを得る、経済性については企業団体にヒアリングいくとよい」、といった意見をいただき、「協働取組」が地域で活性化し、課題解決に至るまで継続実施できるような、組織基盤の強化、地域の巻き込みを可能にするための、EPO の機能を活かした事業の方向性が見えてきた。この議論を踏まえ、次年度方針、業務内容を検討する。

②ESD 事業

１ 下記 5 つの事業を実施・参画しながら、「ESD 実践の活性化」を可能にする仕組みづくりなどについて協議した。

＊持続可能な地域づくりを担う(ESD)人材育成事業
＊環境学習施設等ネットワーク会議
＊中部 ESD 拠点プロジェクト
＊愛知県環境学習コーディネート業務支援
＊普及啓発・研修（リーフレット作成、コンサルティ

図４.平成 25 年度 ESD 事業



ング、ESD 研修、多様な主体との ESD 実践）

それぞれの事業に多様なステークホルダーが関わっており、事業を通して「いかに地域で ESD 実践を活性化させるか、継続させるか」という共通課題を共有した。

ESD 人材育成事業については、各県の ESD に関するステークホルダーによる「形成推進委員会」、実践チームである「ワーキンググループ」を設置し、事業全体のオーナーシップ、各県における ESD 取組のオーナーシップ形成の基盤を作ることができた。事業のコンセプトが「学校と地域の連携による ESD 実践」であったため、事業プロセスでのコミュニケーションや実施した ESD 授業の質から、連携や協働することの価値に気づき、いかに多様な主体と連携して ESD 実践を活性化させ、充実させていくかを共有した。そのためには、自治体、地元の事業者、学校、NPO、地域の団体や人々、PTA に、本事業の成果をわかりやすく伝えるツール、ESD の必要性をわかりやすく伝えるツールが必要であること、そして、参画いただいた多様なステークホルダーによる ESD 実践を可能にするスキームを作りだすことが課題であることを認識した。

環境学習施設等ネットワーク会議では、施設、拠点といった機能を活かして今後環境学習や ESD の実践が広がるために何をすべきか等について協議がされ、中部 ESD 拠点プロジェクトにおいては、高校生の ESD 活動の促進、NPO の提案による ESD 授業づくり、ユネスコスクールのネットワーク形成といった内容で事業が実施され、ここでも鍵となるのは、「多様な主体の参画をどう得るか」という点であった。

愛知県環境学習コーディネート業務支援は、環境学習を実践するための講師派遣や企画づくりへのアドバイスを依頼する側と講師やアドバイスに応える側とのマッチング事業であるが、依頼のニーズが高く、今後の環境学習は学校だけで実践するものではなく多様な人々の参加を得ることで、より質の高い授業になることが実証された。

課題は、ESD の必要性をいかに多くの人に知っていただくか、多様な主体が参加できる状況をいかにつくるか、多様な主体による ESD 実践を継続して行えるようなスキームをいかにつくるか(調整やマネジメントを行うコーディネーターや資金・時間の確保等)である。

課題改善の方策についての議論の場として、マルチステークホルダー会議を実施した。

〈マルチステークホルダーダイアログ～ESD〉

「学校と地域の連携による ESD 人材育成」をテーマに、ESD 人材育成事業で培ったネットワークを活用して、多様なゲスト、参加者と対話の場を持った。主に ESD 人材育成事業の成果を共有し、実施したことから見えてきた課題を共有、改善のための方策について意見を交わした。

論点を「地域と連携して ESD をいかに進めたらいいか、ESD をいかに持続可能なものにするか」とし、学識者、教員、校長、教育委員会、NPO から以下の意見が出された。

＊子どもたちが未来をどう生きていくのか、いったいどんな人間に育ってもらいたいかをより中長期的な観点から捉え実施する。

＊ESD は未来をつくる子どもたちが、どういう人間に育っていくのかである。

＊子どもたちが喜ぶこと、それをみて、学校の先生がもっと頑張ろうと思える。そして子どもたちが変わることで地域の人たち、保護者が変わっていく。

＊学力テストの B つまり活用力向上には ESD は重要である。学力を問われたときにはその説明をし、マスコミ等にも PR して、ESD の必要性を社会に伝えていく。

＊教員は、授業づくり、授業のプロとして、オーナーシップを持って行う。

＊外部講師に最新の情報提供などをお願いすることもある。お互いの強みを持ち寄って授業づくり、カリキュラムを作る。大事なのは、お互いの人間性を知ること。

ESD は、子ども、大人、学校、地域を変えることができる。全ての人々が参画し、地域の素材を活用した授業づくり、活動づくりであることを共通認識として、その価値を伝えるためのツールづくり、しくみづくり、その実践を支える仕組みづくり、スキームづくりを丁寧にしていくことが重要である、が結論であった。

〈平成 26 年度事業方針について～ESD〉

上記を踏まえて、次年度 EPO が実施すべき事業の方針（案）を立て、運営会議にて協議した。

EPO 中部 2014 事業方針（案）

＊ESD が持続的に実施できるための、具体的な地域の状況を明確にする。

＊主体別対象者別にアプローチ方法を提示する。

＊学校と地域の協働、小中高をつなぐ「ESD 実践」を支援する。

＊NGO/NPO、環境学習施設間ネットワークを強化する。

＊地域の ESD 活動への積極的参加を促す。（ESD 認知度向上）

＊情報収集・提供、コンサルティングを強化する。

＊ESD10 年を総括する。

運営委員のほとんどが、ESD 人材育成事業に参画しており、成果、課題を認識しているため、ESD 人材育成事業が終わったら地域に残らなかった、という状況にしてはいけない、と強い意見を数名から得た。そのために EPO は何ができるのか、という議論になった。EPO は各県、各地域の ESD に関わる主体をつなぐ、そして主体形成の支援をする、その価値を社会に発信する役割である、という意見があった。この 10 年培ったネットワークをより活用し、2014 年 11 月を一つのマイルストーンにし、モデルスキームをつくること、そして、2014 年以降、多くの地域で ESD 実践がしやすくなる仕組みづくりを試行すること、を目標に次年度方針、業務内容を検討する。

図 5 .平成 25 年度　情報強化

③情報強化(ホームページの改善)

利用者のニーズ、「EPO 中部事業の可視化」「ESD の最新情報の提供」「興味が持つことができる構成と内容」に応えるために、

＊３つのカテゴリー（EPO、協働、ESD）による情報提供

＊当年業務の進捗の見える化

＊最新情報が提供するための情報収集力の強化、に絞ってホームページの改善を行った。

※詳細については別添資料２「ホームページの改善」参照

３．平成 24～26 年度（中期運営業務計画）事業目標と達成度

中期（平成 24～26 年度）においては、第 1 期、第 2 期で積み上げてきた協働取組の現状把握、協働取組を促進・活性化を阻害する要因、課題の把握を踏まえ、協働取組が地域に根付き、地域課題の解決に至るまで実施しつづける状態(事業化・自立化)を生み出すための支援をねらいとしている。目標は下記である。

(1)平成 24～26 年度目標

持続可能なコミュニティ形成に向け、環境、経済、社会の統合を可能にする地域の多様な主体（行政、企業、メディア、高等教育機関、NPO/NGO、市民等）を顕在化させ、国として取り組むべき県域を超えた協働事業の支援をする。

図１.第３期事業の全体構成

(2)達成状況と成果

２年目となる今年度が、実施した業務によってどの程度目標に達成しているかをいかに示す。

①利用価値のあるサービスの提供と適正な施設運営管理

平成 24～26 年度事業目標	管轄内の多様な主体のニーズに対応し、情報提供、コンサルティング、会議スペース利用等など利用価値のある施設運営を行う。特に、スタッフのスキルアップや専門家との連携を図り、持続可能なコミュニティ形成のための協働事業に関するコンサルティング機能を充実させる。得た情報は専門カルテに記録、可視化し、ホームページやメールマガジンで発信する。また、施設立地の良さを活かし、打合せや会議のためのスペース利用を図る。
平成 25 年度成果・達成状況 次年度に向けて	来館者 7.4%増、問合わせ件数 68.2%増、環境情報の収集量 17%増、ホームページアクセス数 15%増、メールマガジン登録者 4%増など、施設の利用、情報収集、コンサルティング、打合せ場所の提供などのニーズは高まっている。「ESD のことなら EPO に」という学校、自治体、企業、大学からの問い合わせや、「協働できる NPO の紹介は

	EPO に」という事業者からの問い合わせが多い。 今年度から専門カルテによる記録、可視化を中止し、協働取組の可視化ツール作成を試みている。

②協働促進に有効な、情報収集と協働事業の可視化

平成 24～26 年度事業目標	情報収集した協働事業事例やコンサルティングによって得た情報、関わった協働事業等、プロセス・成果を専門家等と協働で分析し、可視化し、ホームページや冊子「中部 7 県環境協働白書（仮称）」にして発信する。協働促進のための情報リソースとする。
平成 25 年度成果・達成状況次年度に向けて	協働取組推進事業の採択団体の事業及びステークホルダーとの関係性構築のプロセスに伴走し、協働取組の可視化ツールを 3 取組作成した。またサステナブルビジネスの事例調査（10 件）を行い、本地域のポテンシャルを把握した。中部 7 県環境協働白書（案）にどのような情報を掲載するか、ニーズに応えられるツールを作成するために今年度作成した可視化ツールのブラッシュアップを図っている。公共性と経済性の指標をつくり、協働取組を分析し、可視化ツールに掲載していくなど検討している。また、過去実施した協働取組に関する協働関係図（可視化ツール）を HP に掲載した。

③「持続可能な開発のための教育（以下 ESD）」の認知度向上、多様な主体による協働実践の支援事業

現状/課題	現在、中部 ESD 拠点、なごや環境大学、金沢大学等高等教育機関、NPO/NGO、自治体、教育委員会が中心となり各方面で ESD 普及、実践の事業が展開している。EPO 中部も地域の ESD 実践者と連携し多様な事業支援を行ってきた。しかし、管轄地域の自治体の政策や企業・NPO の取り組み、協働による取組において ESD 実践は十分ではない。
目的/内容	EPO 中部開設当初より地域の ESD 実践者と連携して進めてきた ESD-T、ESD 中部イニシアティブプロジェクト活動を発展させ、NPO/NGO が主体となり協働促進する ESD 実践者のネットワーク組織の設立を支援し、ESD 普及・実践がしやすくなる状況をつくる。 この間培ったネットワークを強化拡大させた「ESD「協働」推進会議(仮称)」を設置し、地域で ESD に取り組む実践者との関係を深め、ESD の認知度向上、自治体や企業との政策及び協働事業提案、ESD を実践する NPO/NGO や人材の育成プログラム開発等の事業を支援する。2014 年開催の「DESD の 10 年」最終年会合をマイルストーンにする。
協働体制	中部 ESD 拠点、なごや環境大学、愛知県総合教育センター、金沢大学他、ESD 実践 NPO/NGO、自治体、企業、高等教育機関他（「平成 23 年度国連持続可能な開発のための教育の 10 年最終年会合に向けた地域における ESD 活動調査業務」のヒアリング団体を主に対象とする）
平成 25 年度成果・達成状況次年度に向けて	今年度は、環境省 ESD 人材育成事業を実施し、ESD を推進するための県域を越えた組織「形成推進委員会」や、各県での ESD 授業づくりを行う「ワーキンググループ」を設置し、地域で ESD 実践を行う主体形成、スキームづくりの種をまいた。いかに育てていくかが重要である。一部実施した市町村では教育委員会等行政や NPO が継続するため

	の独自のスキーム、仕組みを作り始めている。 他事業については、大学、行政、自治体、学校、教育委員会、NPO、環境学習拠点、コンソーシアム組織など多様な主体との連携による、多様な事業（イベント、研修、講師派遣、広報ツール作成支援及び作成、研究会等）を進めており、ゆるやかなネットワーク形成ができつつある。マルチステークホルダーダイアログにおいても、多様な参加者を得ることができたことも成果である。 NPO/NGO とのネットワークが脆弱化しているため、次年度は ESD-T の復活を含め、なごや環境大学や中部 ESD 拠点と連携して、NPO/NGO 中心のネットワーク形成に力を入れる。また一般市民を対象にした普及啓発をしていないため、今年度作成したパンフレットやパネルを使って展示やワークショップを行いながら進めていく。

④ 協働事業実践者の「つながる」場の創出、県域を越えて実施すべき協働事業の検討、実施のための人材・資金の確保、事業実施主体の形成等の支援

④－1 「持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の公募」の実施と採用事業の支援

現状/課題	協働による課題解決の重要性がうたわれ、その実践が求められているが、地域においては、企業や自治体側の「NPO は事業性や活動の効果が見えにくいため協働しにくい」、NPO 側の「企業や自治体との接触する機会がない」といった協働事業促進の阻害要因がある。
目的/内容	EPO 中部がこれまでに培ったノウハウを活かし、両者のポテンシャルを把握し、組み合わせ効果的につなぐために、管轄内の地域の主体が実施したい、実施しようとしている「持続可能なコミュニティ形成のための（広域展開可能な）協働事業」を公募し、関係性の構築、人材や資金等の持ち寄りを支援する（選考基準・方法については運営会議で検討する）。支援した事業の経緯やプロセス、成果、生み出された協働事業のプロセス、成果などを分析・可視化し、情報提供する。
平成 25 年度成果・達成状況 次年度に向けて	環境省の協働取組推進事業が公募によって実施されたため、EPO として公募による協働事業の公募は行わなかった。環境省事業に採択された協働取組の地域支援事務局として支援を行った。EPO が実施しようとしていたスキームを本省が実施したため必要性がなくなった。

④－2「持続可能なコミュニティづくりメッセ(仮称)」の開催

現状/課題	管轄内で協働事業が実践されているが、その情報や経験が共有されておらず、事例による学び合いや人材交流、資源調達方法の検討等など県域を越えたノウハウの分かち合いの場がない。
目的/内容	管轄内で実施されている、行政、企業、NPO/NGO 等地域の多様な主体による協働事業を共有し、情報や経験、ノウハウを相互理解し、広域展開可能な事業を創出するための情報・経験交流を行う。地域の主体の自主性、自発性による事業展開とし、「持続可能なコミュニティづくりメッセ(仮称)」実行委員会（仮称）を設置し、企画・実施・運営・評価すべてのプロセスを協働で作り上げる。その過程で各主体が学び合う場になるプログラムづくりを行い、主体の関係性の構築のための支援を図る。また、実施することで顕在化した多様な主体やネットワークが持続可能なコミュニティづくりのための協働事

	業を生み出せるよう主体基盤の強化のための支援を行う。さらに同メッセにより把握した協働事業に関する情報を整理し、分析を行いまとめ、また事業全体のプロセス及び成果を可視化し、それらを冊子「中部７県環境協働白書（仮称）」にて集約、発行する。
協働体制	行政（県・市町村）、企業（大企業、中小企業）、NPO/NGO（広域展開、地元密着、中間支援）、市民、議員等の地域の多様な主体等
平成 25 年度成果・達成状況次年度に向けて	平成 24 年度に実行委員会は設置しなかったものの、運営会議委員を核にして実施した。「里山・里海」「再生可能エネルギー」「ESD」の 3 つのテーマで分科会を持ち、中部 7 県の実践者を交えて、協働取組の課題の抽出を行った。課題は、「組織基盤の強化」「安定した資金調達」「地域の巻き込み」であった。抽出された課題は次年度に引き継ぎ、課題改善・解決の為の方策づくりへと発展している。 中部７県環境協働白書については、「活用される白書とは」「どのような情報をどのような形で掲載するか」「活用する側のニーズはどこにあるのか」など、検討している。次年度に作成予定である。

⑤ 地域の具体的課題を設定し、マルチステークホルダーによる対話、「環境、経済、社会の統合」による協働(政業の検討及び実施の支援

現状/課題	持続可能なコミュニティ形成を実現するためには、環境、経済、社会の統合が必須である。しかし現状は、行政、企業、NPO/NGO、市民、学識者、議員、次世代等が散在・潜在している状況にある。
目的/内容	環境、経済、社会の統合による県域を越えた協働事業を展開するため、管轄内の具体的地域課題をテーマ（伊勢湾再生、流域による生物多様性保全、地域資源による再生エネルギーシステムの構築等）に、顕在化した地域の多様な主体と協働で、「持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議(仮称)」を開催する。各主体の役割や地域の特性、ポテンシャルを融合させ、課題解決のための協働事業（政策形成等）を創出し、実施するための対話の場とする。
平成 25 年度成果・達成状況次年度に向けて	今年度実施。当初予定していた具体的地域課題をテーマにせず、昨年度実施したメッセから抽出した共通課題、協働取組の事業化をテーマに実施した。公共性、経済性というキーワードが出され、両方の質を高めること、組織基盤や事業段階に応じた資金調達、地域の人々やステークホルダーの参加の必要性が議論となった。 環境と経済と社会の統合という視点においても、公共性と経済性の指標づくりと融合の可能性を分析することは必要だと捉え、次年度の協働取組だからこその「公共性と経済性の担保、発展」を可能にする仕組みづくりを検討する。

⑥ 「協働」の専門家の参画による EPO 中部の運営及び事業の質の向上を図る
EPO 中部運営（事業）会議(仮称)」の設置

平成 24～26 年度事業目標	専門家、自治体職員、企業担当者、NPO・中間支援組織、中部地方環境事務所、請負団体にて構成する。EPO 中部の事業方針・計画・運営体制の検討、評価を行う。評価は、EPO 中部３ケ年目標「持続可能なコミュニティ形成に向け、環境、経済、社会の統合を可能にする地域の多様な主体（行政、企業、メディア、高等教育機関、NPO/NGO、市民等）を顕在化させ、国として取り組むべき県域を超えた協働事業の支援を図る」に対して、評価指標を委員と協働で作成し、ステークホルダー及びスタッフが評価を行う。それら評価結果を踏まえて、目標達成をより有効にするための事業の質の向上、業務量等を検討する(年２回程度）。
平成 25 年度成果・達成状況次年度に向けて	今年度の環境省「協働取組推進事業」「ESD 人材育成事業」を実施するにあたって、運営会議委員の積極的参加を得ることができた。EPO の機能を活用した、広域性と地域性を融合させた取組を実施することができ、運営会議では非常に活発な議論となった。次年度は、協働取組の公共性と経済性を融合させて指標を運営会議委員と協働で作成する予定である。併せて、ESD 人材育成の成果をいかに地域に残すか、継続させるかについて知恵や経験を持ち寄り、スキーム作りを行う予定である。他の事業についても、各県で実施した事業については、運営会議委員の参加を促し、共通の課題認識を持っていただけるようにした。運営会議委員の参加、対話の場をできるだけ多く作り、地域のガバナンス、オーナーシップ形成の核づくりをしていく。

⑦ 環境省及び全国 EPO ネットワークと連携し、国として又は全国で取り組むべき課題共有、事業展開のためのしくみをつくる。

平成 24～26 年度事業目標	環境省及び地方環境事務所と対話をし、国の機関として取り組むべき事業を実施する。また全国EPOと連携しEPOネットワークを活かして、全国の先進協働事例の発信、協働促進のための共通課題の共有、連携して展開すべき事業の意見交換や提案づくりを行う。
平成 25 年度成果・達成状況次年度に向けて	今年度の環境省「協働取組推進事業」「ESD 人材育成事業」を実施するにあたって、協働取組推進事業については作業部会及び協働ギャザリング、ESD 人材育成事業については全国関係者会議や広報ツールの作成、例年の全国 EPO 連絡会と環境省、全国 EPO ネットワーク、地方事務所との協議の場、情報・経験共有の場を例年以上に持つことができた。 環境省とは協働取組、ESD について、国として何を目指すのか、地域と協働して何を実現したいのかについて意見を交わし、EPO が国の拠点として担うべきこと、地域ニーズに応えて担うべきことの融合による事業設計を考えることができた。 地方事務所も同様、国の地方機関として、EPO をどう活用したいのか、地域ニーズにどう応えていくのかを議論する中で、お互いの役割が明確になり、生かしあう事業展開ができている。 全国 EPO ネットワークに関しては、日本 NPO センターGreen gift プロジェクト、地球

	環境基金の説明会や協定、PO の新人スタッフのインターン受け入れなど、全国組織であるからこその影響力のある事業を展開することができる。また、各地方 EPO にはそれぞれの特色があり、事業形態や内容、方法が違っていることにより、EPO 中部にはない発想や方法を知ることができ、お互いの強みを学び合える。 次年度は、ESD ユネスコ会議が開催される。CBDCOP10 の際にも行ったが、環境省、地方事務所、GEOC、地方 EPO の協働による「協働取組、ESD の社会化」に関する事業を検討する。

４．平成 25 年度業務報告

(1)中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等

①中部環境パートナーシップオフィス運営会議の運営

中部環境パートナーシップオフィス運営会議運営	
目的	事業方針・計画の検討と承認、事業実施及び支援、評価を行う。
事業概要	運営会議委員の参画を得て、それぞれの専門性により事業方針・計画の検討と承認、事業実施及び支援を行う。 年２回実施(名古屋市内2回)
事業内容	今年度の上半期運営会議の日程調整を行い、６月５日(水)に行うことに決定した。今年度依頼をした運営会議委員のメーリングリストを作成した。また、運営会議委員を対象に、特に各県の今年度の協働及びESDに関する重要施策に関してヒアリングを行った。上半期運営会議準備・資料作成(議事次第、案内文書)を作成、送付、会議当日は、事業計画(案)の協議と承認を行い、事業への積極的参加を依頼した。下半期の運営会議の日程調整を行い、3月14日(金)午後行うことを決定し、事前に業務報告書等を送付した。当日は、今年度事業の報告、それを踏まえての次年度の事業方針についての協議をした。 [ヒアリング実施] 対象：長野県・長野県環境保全協会・富山県・本田恭子氏(環境教育ネットワークとやまエコひろば)・石川県・三国千秋氏(北陸大学)・鈴木克徳氏(金沢大学)・北陸経済連合会・福井県・吉川守秋氏(NPO法人エコプランふくい)・岐阜県・三重県・愛知県・名古屋市・千頭聡氏(日本福祉大学)、松井真理子氏(四日市大学) [平成25年度上半期運営会議] 日時：平成25年６月５日(月)13:30～16:30 場所：中部地方環境事務所 第１会議室 参加者：運営会議委員 20名 欠席5名 事務局6名 主に第3期事業1年目の成果を踏まえての2年目事業についての情報共有、及び具体的事業内容の検討、「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」「平成25年度中部地域における持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラムの作成・展開業務」についての検討、協働事業の可視化及び2014年に向けてのESD事業展開について協議をした。その後、上半期運営会議の議事録作成、運営委員への送付を行った。 [平成25年度下半期運営会議] 日時：平成26年3月14日(金)14:00～17:00 場所：中部地方環境事務所 第１会議室 参加者：運営委員会議委員 13名 欠席11名 事務局５名 今年度業務の報告として、①HP改善による情報強化、②協働関連業務、③ESD関連事業について説明をした。今年度は、環境省の「協働取組推進事業」「ESD人材育成事業」を主な業務とし、運営委員の積極的参加を得て実施したため、事業の

	課題や次年度の方針等各県の状況を踏まえて協議することができ、今後EPOが担うべき役割について確認した。次年度の事業方針、第3期目標達成について、「協働」に関しては、 ①「事業化」のイメージを明確にする。 ②公共性と経済性を軸にした協働取組事業化のための指標づくり。 ③より公共性を帯びるよう、多様な主体の共感、理解、参加を可能にするサービスづくり ESDに関しては、 ①ESDが持続的に実施できるための、具体的な地域の状況を明確にする。 ②主体別対象者別にアプローチ方法を提示する。 ③学校と地域の協働、小中高をつなぐ「ESD実践」を支援する。 ④NGO/NPO、環境学習施設間ネットワークを強化する。 ⑤地域のESD活動への積極的に参加する。 ⑥情報収集・提供、コンサルティングを強化する。 ⑦ESD10年 (EPOの2005年～2014年を総括)の総括 を提案し、意見交換をした。結果、基本的にはこの方針をたたき台にして、再度運営会議委員にヒアリングなどをし、事業計画を作成することとした。また、次年度の上半期運営会議は5月6日(月)に予定をしている。会議後、下半期運営会議の議事録作成、運営委員への送付を行った。
協働パートナー	運営会議委員
評価指標・方法	指標：適正運営、目標達成等 方法：下半期運営会議での協議
成果・評価	今年度は、「協働取組推進事業」「ESD人材育成事業」への運営会議委員の積極的参加を得ることができ、協働及びESDの持つ課題についての共通認識を持つことができ、EPOとして何を担うべきか、地域が求めているEPOの役割について共有することができた。継続的に実施できる仕組み、スキームを地域のオーナーシップによってどう作り上げるか、そのための支援をどのような形で行うか、というのが協議の肝であった。わかりやすい指標づくり、共感を得る伝え方、基礎自治体を巻き込む、など多様な意見があったが、今後も運営会議委員に相談しつつ、事業展開を進める。

②中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成

中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成	
目的	中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成
事業概要	中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成(外部評価等) 運営上必要な書類等中部地方環境事務所の担当官と協働で作成
事業内容	[地域づくり支援の在り方検討意見交換会・環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会] 地方事務所が2月開催した「地域づくり支援の在り方検討意見交換会」「環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会」の打合せに参加し、企画についての意見交換、資料提供を行った。 〈打合せ〉 12月３・４日(火・水) 打合せ 1月7日(火) 打合せ

	1月28日(火)打合せ 1月29日(水)打合せ 〈地域づくり支援の在り方検討意見交換会〉 2月21日(金)地域づくり支援の在り方検討意見交換会 〈事前準備及び実施後ふりかえり〉 2月7日(金)地域づくり支援の在り方検討意見交換会事前打合せ 2月13日(木)地域づくり支援の在り方検討意見交換会シナリオ設計 3月10日(月)地域の中間支援組織の在り方検討会議まとめの会議 〈環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会〉 2月28日(金)環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会 〈事前準備及び実施後ふりかえり〉 2月6日(木)環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会打合せ 2月25日(火)ESD在り方検討のための意見交換会打合せ 2月27日(木)環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会資料準備 3月11日(火)環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会まとめの会議 [外部評価委員会] 地方事務所が行う、EPO中部の外部評価委員会のための資料作成等をした。 2月6日(木)外部評価委員会に提出する自己評価シートの作成 2月10日(月)外部評価委員会に提出する自己評価シートの作成 2月12日(水)外部評価委員会当日使用する資料作成 2月18日(火)外部評価委員会当日使用する資料作成 2月19日(水)外部評価委員会当日使用する資料作成 2月21日(金)外部評価委員会当日使用する資料作成 2月24日(月)外部評価委員会当日使用する資料作成 2月25日(火)外部評価委員会
協働パートナー	環境省、中部地方環境事務所
評価指標・方法	指標：円滑な事業実施、等 方法：関係者によるヒアリング
評価・成果	地域づくり支援の在り方検討意見交換会・環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会については、EPOが実施したマルチステークホルダーダイアログを発展させる内容となり、連携して実施できたことは次の段階を検討する上での非常に有効な事業となった。 外部評価委員会は年1度、次年度にEPO事業を受託できるかの判断がされる会議であり、今年度業務の自己評価シートを作成し、プレゼンテーションを行い、外部評価委員の質問に答えるなどのプロセスを踏んだ。

(2)中部地方環境事務所との協働による事業実施

①中部地方環境事務所との定例会議の開催・運営

中部地方環境事務所との協働による事業の実施	
目的	中部地方環境事務所との定例会議の開催。中部地方環境事務所との協働による円滑な運営を確保するため、密接な情報共有及び意見交換を図り事業を実施する。
事業概要	中部地方環境事務所との定例会議(月１回)
事業内容	定例会議を毎月1回、年間12回実施した。4月～6月は、5月実施の運営会議の会議設計や使用する資料について、「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」「平成25年度中部地域における持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラムの作成・展開業務」の実施方策等について協議した。7月～9月は、事業の進捗状況、事業実施に向けての課題共有を行った。特にESD人材育成事業、協働取組推進事業について、いかに各県のステークホルダーの理解を得て巻き込み、実施するかについて検討した。10月～12月は、事業の進捗状況、課題共有とともに、協働取組推進事業、サステナブルビジネス調査、ESD人材育成事業、マルチステークダイアログ事業、HPの改善策について協議した。また、次年度のESDユネスコ世界会議に向けての地方事務所とEPOの役割についても意見交換をした。1月～3月は、下半期運営会議の会議設計、外部評価委員会やマルチステークホルダーダイアログについて、次年度に向けての事業方針・計画についての意見交換をした。また、地方事務所が主催で行う、「地域づくり支援の在り方検討意見交換会」「環境ESDプログラムの普及取組の在り方検討のための意見交換会」の企画についての意見交換も行った。 〈実施日時〉 4月9日(火)10:30～12:00 5月15日(水)10:30～12:00 6月11日(火)10:30～12:00 7月8日(月)10:30～12:00 8月20日(火)10:30～12:00 9月12日(木)10:30～12:00 10月15日(火)10:30～12:00 12月2日(月)10:30～12:00 12月18日(月)10:30～12:00 ※11月に実施できなかったため、12月に2回実施した。 1月7日(火)10:30～12:00 2月5日(水)10:30～12:00　3月11日(火)　13:00～15:00
協働パートナー	環境省、中部地方環境事務所
評価指標・方法	指標：円滑な事業実施、等 方法：関係者によるヒアリング
成果・評価	今年度から地方事務所の担当者が新しくなり、EPO中部がこれまで実施してきた事業内容、地域のステークホルダーとの関係性、地域にニーズに基づく事業方針・計画、3年間で何を目指し実現するか、など前半は共有しながら会議を進めた。また、協働取組推進事業、ESD人材育成事業の実施により、地方事務所とEPOがお互いの強みを活かしながら事業展開をするために、定例会議は非常に重要で、確認・共有作

	業を丁寧いに行った。この議論の積み重ねや確認・共有のプロセスを重視したことで、事業の質が向上した。

②持続可能社会に向けた地域協働モデルづくり

ア　持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援

平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業採択事業（３事業の採択）	
目的	協働の締結や具体的取組等について先導的な事例を形成し、協働取組の経験を蓄積し普及共有する。 また、協働取組の方法や手順を明らかにして、他地域で協働取組を活かした環境保全活動の幅広い波及を図る。
事業概要	採択団体の実施する事業を支援 このプロセスにおいて各採択団体の協働事業に係るステークホルダーの関係性、事業成果を把握・共有するためのコミュニケーションツールをつくる。 ①地域課題を解決する協働事業のプロセスを可視化する。 ②地域課題を解決する協働事業を促進するためのツールをつくる。
事業内容	採択団体決定後、ヒアリングを行うための日程調整や資料作成を行った。また、ヒアリングを行い、本事業の目的や実施方法、各団体の事業内容及び地域支援事務局の役割について共有した。 採択団体が本格的に動き出し、事業報告の作成、協議会・検討会・活動への参加、ステークホルダーへのヒアリングなどを行った。会議議事録や事業報告の作成による課題の共有や、各採択団体の円滑な事業展開のための資料・情報提供を行った。全国支援事務局への報告や作業部会への参加、HP原稿やつな環原稿の作成なども行った。さらに、各事業の目標設定、シナリオ検討など内部打合せや関係者打合せを行った。 採択団体のスケジュールに沿って事業を支援した。事業報告の作成、協議会・検討会・活動への参加、全国支援事務局への報告や作業部会への参加などである。また、採択団体の協働主体に対し、アンケートやヒアリングを実施し、協働事業における成果や効果を検証。さらに、次年度に向けた採択団体の課題整理・情報共有や情報提供等を行った。 〈採択団体〉 ・いきものみっけファームin松本(いきものみっけファームin松本推進協議会) ・みんなの環境学習講座(NPO法人南信州おひさま進歩) ・里山と海を結ぶ「ひみ森の番屋」地域内エネルギー循環事業(越の国自然エネルギー推進協議会) 〈事業内容〉 6月27日(木)いきものみっけファームin 松本推進協議会(長野)・NPO法人南信州おひさま進歩(長野)ヒアリング 6月28日(金)越の国自然エネルギー推進協議会 (富山)ヒアリング 7月12日(金)越の国自然エネルギー推進協議会第1回協議会参加 7月13日(土)越の国自然エネルギー推進協議会竹林整備参加、運営委員ヒアリング 7月17日(水)いきものみっけファームin松本推進協議会第1回協議会参加、NPO

	法人南信州おひさま進歩第1回協議会参加 7月21日(日)いきものみっけファームin松本推進協議会「収穫祭」参加 7月27日(土)越の国自然エネルギー推進協議会第1回ひみ森の番屋シンポジウム参加、協働主体ヒアリング 8月8日(木)第１回連絡会開催(いきものみっけファームin松本推進協議会) 8月25日(日)越の国自然エネルギー推進協議会「親子生き物調査-夏場-」参加 ８月29日(木)第1回連絡会開催(越の国自然エネルギー推進協議会、NPO法人南信州おひさま進歩) 9月 6日(金)協働取組推進事業作業部会参加(東京) 9月27日(金)協働取組推進事業交流会開催 9月28日(土)越の国自然エネルギー推進協議会カーボン・オフセット研修会参加 9月30日(月)越の国自然エネルギー推進協議会第２回協議会参加、氷見市役所及び㈱BSA取材 10月7日(月)いきものみっけファームin松本推進協議会打合せ 10月25日(金)作業部会(東京)、 NPO法人南信州おひさま進歩講演会参加 11月11-12日(月・火)いきものみっけファームin松本推進協議会協議会 11月14日(木)越の国自然エネルギー推進協議会情報共有会議及びグループインタビュー 11月15日(金)NPO法人南信州おひさま進歩事業視察 11月17日(日)いきものみっけファームin松本推進協議会事業参加 11月18日(月)作業部会(東京) 11月20日(水)NPO法人南信州おひさま進歩公民館主事グループインタビュー実施 11月22-23日(金・土)越の国自然エネルギー推進協議会エコツアー・もりの番屋初場所 12月6日(金)第２回連絡会(採択3団体) 12月9日(月)NPO法人南信州おひさま進歩ヒアリング 12月13日(金)NPO法人南信州おひさま進歩協働パートナー(まちづくりカンパニー)ヒアリング 12月16日(月)いきものみっけファームin松本推進協議会協議会 12月18日(水)NPO法人南信州おひさま進歩協働パートナー(山法師)ヒアリング 12月20日(金)作業部会(東京) 1月6日(月)越の国自然エネルギー推進協議会協働主体アンケート結果報告書作成、いきものみっけin松本推進協議会２月ひとづくりフォーラム企画運営への支援 1月7日(火)報告書作成の準備 1月8日(水)越の国自然エネルギー推進協議会エコツアー報告書作成、支援事務局月次報告書作成 1月9日(木)越の国自然エネルギー推進協議会エコツアー報告書作成、支援事務局月次報告書作成 1月10日(金)いきものみっけin松本推進協議会＆NPO法人南信州おひさま進歩、支援事務局担当者営業ツール作成準1月14日(火)支援事務局担当者営業ツール制作会議、作成作業

	1月16日(木)支援事務局担当者営業ツール作成 1月20日(月)越の国自然エネルギー推進協議会協働主体アンケート結果報告書作成、月次報告書作成・全国支援事務局に送付、NPO法人南信州おひさま進歩報告会関連事務 1月22日(水) PO法人南信州おひさま進歩報告会関連事務 1月23日(木)越の国自然エネルギー推進協議会第３回協議会、いきものみっけin松本推進協議会、人づくりフォーラム運営準備支援 1月31日(金)いきものみっけin松本推進協議会、人づくりフォーラムの運営支援 2月1日(土)いきものみっけin松本推進協議会人づくりフォーラム 2月4日(火)越の国自然エネルギー推進協議会2月11日開催シンポジウムチラシ作成支援、いきものみっけin松本推進協議会今後の事業予定の確認、NPO法人南信州おひさま進歩報告会の連絡事務 2月6日(木)北陸三県里山地域バイオマスセミナー(11月15日)報告書作成、越の国自然エネルギー推進協議会(2月11日)シンポジウムチラシ作成支援 2月11日(火)持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援　越の国自然エネルギー推進協議会第２回シンポジウム 2月7日(金)協働ギャザリング資料作成、いきものみっけin松本推進協議会環境教育指導者養成講座進捗確認、経費状況確認、月次報告書作成 2月10日(月)協働取組ヒアリング長野山法師テープ起こし、いきものみっけin松本推進協議会人づくりフォーラム記録作成支援、NPO法人南信州おひさま進歩報告会の連絡事務 2月12日(水)第2回連絡会(12月6日)議事録作成、いきものみっけin松本推進協議会人づくりフォーラム記録作成支援、　NPO法人南信州おひさま進歩報告会の連絡事務 2月13日(木)いきものみっけin松本推進協議会人づくりフォーラム記録作成支援、報告会に向けた準備作業の確認 2月14日(金)第2回連絡会(12月6日)議事録作成、支援事務局月次報告書の作成、いきものみっけin松本協議会、中期計画の確認・助言、NPO法人南信州おひさま進歩報告会の連絡事務、公民館大会準備 2月17日(月)NPO法人南信州おひさま進歩協働主体山法師取材報告書作成、第2回連絡会(12月6日)議事録作成、いきものみっけin松本推進協議会報告会に向けた準備状況の確認 2月18日(火)NPO法人南信州おひさま進歩協働主体山法師取材報告書作成、いきものみっけin松本推進協議会振り返りシート作成支援 2月19日(水)協働取組推進事業振り返りシート作成支援、越の国自然エネルギー推進協議会中期計画書作成支援、いきものみっけin松本推進協議会事業終了に向けての準備状況の確認・助言、NPO法人南信州おひさま進歩報告会の連絡事務 2月20日(木)NPO法人南信州おひさま進歩報告会の連絡事務 2月21日(金)NPO法人南信州おひさま進歩第3回検討会出席 2月22日(土)持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援協働ギャザリング

	2月25日(火)NPO法人南信州おひさま進歩報告書作成支援 2月26日(水)持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援、NPO法人南信州おひさま進歩報告書作成支援 2月27日(木)第2回連絡会(12月6日)議事録作成、NPO法人南信州おひさま進歩報告書作成支援 2月28日(金)第2回連絡会(12月6日)議事録作成、いきものみっけin松本推進協議会事業報告書チェック 3月3日(月)報告書目次・担当割資料作成、12月6日第2回連絡会議事録作成 3月5日(水)事業報告書・中期計画最終提出関係書類の整理 3月6日(木)MSHダイアログ報告書作成、協働取組報告書資料作成、月次報告作成 3月7日(金)MSHダイアログ報告書作成、協働取組報告書原稿作成、月報作成 3月10日(月)報告書作成会議 3月11日(火)報告書作成、営業ツールデータ編集 3月12日(水)報告書作成 3月13日(木)報告書作成 3月14日(金)報告書作成 3月16日(日)報告書作成 3月17日(月)報告書作成 3月18日(火)報告書作成 3月19日(水)報告書作成 3月20日(木)報告書作成 ※詳細については別添資料３「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業　中部地域支援事務局事業実施報告書」参照
協働パートナー	採択事業団体、地方環境事務所他
成果・評価	協働取組が抱える課題は、「明確な役割に基づくステークホルダーの参加と、事業成果をあげ、その成果を共有し社会化するか。そしてその過程の中で、事業の段階や成熟度を踏まえた、地域住民の参加や資金調達の方法を組み入れるか、さらなる主体の参加を得るか、という事業設計、戦略の企て、遂行」であった。地域支援事務局はその課題の解決のために、連絡会、交流会、各協働取組のイベントや日々のコミュニケーションにおいて下記についてアドバイスしたことである。 ①課題である「組織の基盤強化」「多様な主体の参画」「資金調達」は個別の課題ではなく、それぞれが絡み合って、課題が拡大化する。この課題の改善を事業に結び付けて、いかに事業展開をするかのシナリオが必要であること。 ②取組のゴール、目標をだれにでもわかるように具体化し、現段階からどう進もうとしているか、組織内情報循環、地域社会への頻繁な情報提供が必要であること。 ③対象によってニーズやアプローチが違うので対象別(自治体、事業者、地域住民、地域以外対象、親子対象など)に理解、参加を促進するためのツールをつくること。 ④各事業(部会やプロジェクト)が個別に展開しがちなので、ズレが起きないための情報の共有や、それぞれの組み合わせによるダイナミックな動きにすること。 ⑤参加しているステークホルダーの役割、いかに強みを事業の中で生かすかを常に共有すること。

	さらに、地域支援事務局という外部組織ができることとして、３つの協働取組のステークホルダー、協働主体の生声を聞くための、アンケート、ヒアリング、グループインタビューを実施した。３つの協働取組にほぼ共通する内容とは、「事業を実施する価値・意義は理解している」「協働がよりよい成果を生み出すことも理解している」「自分がどう参加できるのか、どう参加すべきかが見えにくい」「具体的な目標達成に向けての道筋が明確ではなく、明確にするためのコミュニケーションが必要である」「自治体や事業者を巻き込むか、地域住民の参加を高めることができるのか、具体的方策の検討が必要である」「事業の見直し、新たな展開を検討する場が必要である」であった。事務局や核となる主体に伝え、参加している組織や人々の考え、意見を共有し、いかに連帯を生み出すかを、検討した。他には、自治体や、地域支援事務局と関係のある事業者に本事業の取組を紹介するなど後方支援を行った。 地域支援事務局の課題は、「地域支援事務局が関わることのメリットをいかに提示し、担うか」「どこまで関わり、いつまで支援をし続けるか」である。今年度については、各取組のゴールに向けて、課題や起きているマイナス現象を見つめ「構造的な課題を明らかにすること」「外部の視点から関係者の生声を聞き、アドバイスすること」「自治体や事業者に協働取組の社会的価値・意義を伝えること」を担った。この支援は、各団体が事業に行き詰った際、または次の段階を目指す際に、外部から客観的に取組の課題や成果を提示し、多面的に思考し、選択の幅を広げることに役に立った。しかし、課題改善・解決のための具体的手法、方策を提示することができなかった。このプロセスの中で、地域支援事務局の持つべきスキルが明らかになった。

イ　サステナブルビジネス支援連携体制構築等業務の実施

サステナブルビジネス支援連携体制構築等業務の実施 地域課題解決のための協働事業の課題(主体形成・資金循環等)改善プロジェクト	
目的	持続可能な社会を実現するために、環境保全事業の実施を通じてまちづくりや地域の経済社会にも付加価値をもたらす事業(サステナブルビジネス)の醸成・発展のため、サステナブルビジネスを支援する中間支援組織等と協働する。持続可能なコミュニティ形成のための協働事業と連携し、「協働事業の事業化のための課題(主体形成・資金循環等)改善」事業として実施する。
事業概要	[サステナブルビジネスの事例収集] 10事例の内訳：愛知県外2件、愛知県内8件(内名古屋市内4件)程度 [事例紹介によるサステナブルビジネスの可視化] 優れた事例の事業概要と事業化プロセスの可視化。協議会を設置し、有識者、企業、NPO等(名古屋市内在住・在勤6名程度)、年2回(名古屋市内)で開催。 [サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築] 協議会を設置し、有識者、企業、NPO、プロボノ等からなる協議の場を設置(名古屋市内在住・在勤6名程度)年2回程度開催(名古屋市)
事業内容	**[サステナブルビジネスの事例収集]** 連携して調査を実施する株式会社ピー・エス・サポートと打合せをし、本事業の目的、ゴール、役割分担について意見を交わし、共通目的を認識した。サステナブルビジネス調査対象を10事例すべて決定し、調査活動を開始した [サステナブルビジネス調査先]

	1)いるかビレッジ 2)合同会社アグリホリック 3)企業組合山仕事創造舎 4)㈱ディーエルディー 5)㈲オズ 6)穂積製材所プロジェクト 7)NPO法人メタセコイアの森の仲間たち 8)リユースプロジェクト「めぐる」 9)㈱地域資源バンクNIU 10)社会福祉法人むそう [打合せなど] 5月17日(金)調査対象先検討打合せ 6月12日(水)調査内容打合せ 7月11日(木)事例取材に関する打合せ 9月12日(木)調査事例候補先選定会議 9～12月調査実施 11月29日(木)穂積製材所プロジェクト取材 1月8日(水)穂積製材所プロジェクト取材報告書作成 ２月17日(月)報告書完成 ※詳細については別添資料４「サステナブルビジネス事例収集等請負業務報告書」参照 **[事例紹介によるサステナブルビジネスの可視化]** サステナブルビジネスの可視化のための会議体を開催。その準備、資料作成、議事録作成を行った。協働取組採択団体の3事業の可視化ツール、支援ツールの検討、ツール案を作成した。 〈協働事業グッドプロセスの可視化プロジェクト及び課題改善検討プロジェクト会議〉 千頭　聡氏（日本福祉大学国際福祉開発学部教授/EPO中部運営委員） 三矢　勝司氏(名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター特任助教授/EPO中部運営委員) 吉川　守秋氏(NPO法人エコプランふくい事務局長/EPO中部運営委員) 大西　光夫氏(NPO法人ボランタリーネイバーズ理事長/EPO中部運営委員) 平沼　辰雄氏(株式会社　リバイブ代表取締役/EPO中部運営委員) 村田　元夫氏(株式会社ピー・エス・サポート代表取締役) 9月27日(金)第1回協働事業グッドプロセスの可視化プロジェクト及び課題改善検討プロジェクト会議 12月6日(金)第２回協働事業グッドプロセスの可視化及び第２回課題改善検討プロジェクト会議 1月6日(月)協働取組可視化ツールの作成 1月7日(火)協働取組可視化ツール作成 1月8日(水)協働取組可視化ツール作成 1月14日(火)協働取組可視化ツールの作成

	[サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築] サステナブルビジネスを事業化するために、その事業の進捗を把握するプロセスマネージャー、事業に必須の専門知識を有するプロボノを招き、意見交換を行った。さらに、本地域のサステナブルビジネスである２事業(リユースプロジェクト「めぐる」とクリア・ウォーター・プロジェクト)に派遣されたプロセスマネージャーとプロボノと、事業の課題及び成果、今後の事業展開についての意見交換を行った。 〈サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築会議〉 高野　雅夫氏(名古屋大学大学院環境学研究科准教授) 木村　真樹氏(一般財団法人あいちコミュニティ財団/コミュニティ・ユース・バンクmomo代表理事) 久野　美奈子氏(NPO法人起業支援ネット代表理事) 加藤　和利氏(ブラザー工業株式会社　ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ部長) 酒向　清治氏(瀬戸信用金庫　資産経営相談グループ次長) 星野　和平氏(リユースプロジェクト「めぐる」プロボノ) 加藤　亘氏(クリア・ウォーター・プロジェクトプロセスマネージャー) 7月17日(水)第1回サステナブルビジネスの課題改善・支援体制の構築会議 12月9日(月)第2回サステナブルビジネスの課題改善・支援体制の構築会議 2月5日(水)第2回議事録作成、資料作成・送付 2月12日(水)資料作成 2月17日(月)第１回議事録作成 2月18日(火)第１回議事録作成・送付 **[他]** 12月9日(月)第２回サスプログラム委員会参加(調査対象先事業報告会) 1月29日(水)第３回サスプログラム委員会出席 3月3日(月)議事録修正 3月6日(木)議事録修正、支払計算書作成 3月19日(水)次年度事業について打合せ
協働パートナー	中間支援組織、運営会議委員、協働事業主体、学識者など
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	[サステナブルビジネスの事例収集] 中部地域の、地域の資源を使って地域循環を生み出し地域経済を活性化する、持続可能な地域を創出するであろう「サステナブルビジネス」10事例を調査し、多様な手法、分野で実践されていることを把握した。サステナブルという「社会性」「公共性」の視点と、ビジネスという「経済性」「営利性」の視点をどう両立させていくかが、すべての調査先の共通の課題であった。各取組によって、その比重や戦略が違ってはいたが、いかにバランスよく進めることで、資金調達方法、地域住民の巻き込み方法も変わってくるであろうことを認識した。 [事例紹介によるサステナブルビジネスの可視化] 計２回の会議であったが、公共性と経済性、社会的価値と経済的価値の両立には、融合を可能にする「プロセス分析」と「指標作成」が必要であることを共有した。また「資金調達」については、商品・サービス等の適正価格(社会的価値＋経済的価値)の検討が必須である、公共性、共感を得る事業でないと選択の幅が広がらな

	い、多様な資金調達策を把握する、どの段階でどの資金調達を選ぶのか組織内検討を行う、将来を見据えた形での事業計画、経営計画を立てる、などの協議を行い、サステナブルビジネスが継続的に実施されるための方策を検討した。可視化ツールは、その際に共感を得るためのツールであることを共有した。今年度は協働取組推進事業採択団体の3事業について作成した。 [サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築] 事業化(自立化)を目指す協働取組や、サステナブルビジネスの多くが陥りやすい課題を克服するために経営マネジメントが必須であることを認識し、プロセスマネージャーを派遣し、事業経営全体の把握とアドバイスを行い、必要に応じて専門家であるプロボノを派遣し、具体的なアドバイス、課題改善策の検討、事業計画の見直しなどを行うことの必要性を確認した。そのしくみをどう作り上げるか、プロセスマネージャー、プロボノは有償(無償)なのか、ニーズをどう把握するか、派遣できるプロセスマネージャーやプロボノの見つけるか、といった次なる課題を共有した。

③持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議の開催

「持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議」開催 **MSH(マルチステークホルダー)ダイアログ　協働とESD～サステナブルな社会を「本気」でつくる～**	
目的	支援した協働事業関係者等でマルチステークホルダー会議を開催し、協働事業の継続的展開(事業化)を可能にする方策について意見交換を行う。昨年実施した「中部7県協働会議」で抽出された共通課題を解決する為に、環境、経済、社会の統合を念頭に、国として取り組むべき県域を超えた協働事業の実施のための、マルチステークホルダー会議を開催する。
事業概要	支援した協働取組のプロセスを可視化し、協働取組の方法(特に各主体間の関係性づくり、会議設計・成果等)を共有する。①事業の目標達成度、②ステークホルダーの協働の関係性成熟度を評価軸に、協働取組の価値、事業効果、そのプロセスにおけるターニングポイントを共有し、協働取組推進のためのマニュアル、シナリオを検討する。 時期：2014年1月開催予定※半日程度 会場：名古屋市内 対象者数：100人程度 参加者(予定)：支援した協働事業に関わるステークホルダー、中間支援組織、行政等 〈プログラム内容〉 協働事業の成果とプロセス～事例紹介 協働事業のプロセスを可視化し見えてきた課題 課題解決のために必要な方策とは～協議
事業内容	開催日程・場所の調整を行い、平成26年1月17日(金)会場ウィンクあいちでの実施を決定し、運営会議委員等関係者への周知を行った。今年度協働取組事業採択団体(３事業者)及びサステナブルビジネス事例調査対象よりゲスト、コメンテーター、ファシリテーター候補を選定し、またコンセプトを設定し企画書を作成した。出演者交渉をし、出演者決定。チラシの作成広報を行った。中部7県中間支援組織やサステナブルビジネス支援組織、協働取組に関心のある団体・事業者を対象に広報を実施した。12月にはゲスト、コメンテーターと打合せをした。以下実施内容等であ

	る。 [実施内容] 日時：平成26年1月17日(金)13:00～17:30(12：30開場) 場所：ウィンクあいち 会議室 参加者：77名 〈プログラム〉 ＊オリエンテーション ＊マルチステークホルダーダイアログ ＊全体会 〈ダイアログ内容〉 ＊ダイアログ1．協働～組織を強くする、地域を巻き込む 参加者：合計21名 ゲスト：藤村 哲氏(いきものみっけファームin松本推進協議会 事務局) 舩木 直人氏(島ヶ原木材工業有限会社穂積製材所プロジェクト担当) コメンテーター： 船木 成記氏(平成25年度環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業アドバイザリー委員/尼崎市顧問) 吉川 守秋氏(NPO法人エコプランふくい事務局長/EPO中部運営会議委員) ファシリテーター：太田黒 周(EPO中部協働コーディネーター) ＊ダイアログ２．協働～資金をどう調達するか 参加者：合計24名 ゲスト：竹平 政男氏(越の国自然エネルギー推進協議会 会長) 加藤 亘氏(「ClearWaterProject」 プロセスマネージャー) 星野 和平氏(「リユースプロジェクト『めぐる』」 プロボノ) コメンテーター： 戸崎 泰史氏(日本政策金融公庫 国民生活事業本部 名古屋中支店 融資第4課長) 伊藤 健氏(東濃信用金庫 とうしん地域活力研究所 所長補佐) 木村 真樹 氏(コミュニティ・ユース・バンクmomo代表理事/一般財団法人あいちコミュニティ財団代表理事) ファシリテーター：村田 元夫氏(株式会社ピー・エス・サポート代表取締役) ＊ダイアログ３．ESD～学校と地域の連携によるESD展開の可能性 ※中部7県ESD会議として開催 ※一部環境省平成25年度ESD人材育成事業愛知県報告として開催 参加者：合計32名 ゲスト：松本 謙一氏(富山大学人間発達科学部教授) 鈴木 克徳氏(金沢大学環境保全センター長・教授) 前園 泰徳氏(福井大学教育地域科学部特命准教授) 小室 邦夫氏(松本市立源池小学校校長) 小林 由紀子氏(NPO法人e-plus生涯学習研究所代表理事) 布本 肇氏(名張市教育委員会学校教育室指導主事) 原 伊津子氏(東浦町立緒川小学校教諭) コメンテーター：山内貴弘氏(愛知県岡崎市立新香山中学校教諭)

	林　宗弘氏(愛知県豊田市立西広瀬小学校教諭) 毛受芳高氏(一般社団法人アスバシ教育基金代表理事) モデレーター：新海洋子(EPO中部チーフプロデューサー) 〈事前準備〉 1月6日(月)出演者事前資料作成、企画調整、広報 1月7日(火)出演者事前資料作成、参加者リスト作成、広報・案内送付 1月8日(水)出演者事前打合せ日程調整、企画書送付 1月9日(木)出演者事前打合せ日程調整、当日資料作成、ゲスト連絡・調整 1月10日(金)東濃信用金庫・日本政策金融公庫事前打合せ、日本政策金融公庫主催シンポジウム出席、参加者リスト作成 1月14日(火)当日資料作成、㈱PSサポートとMSHダイアログ進行の打合せ、広報、ゲスト連絡、アンケート作成 1月15日(水)当日資料作成、ゲスト最終企画書・スケジュール等連絡、ダイアログ進行マニュアル、支援事務局担当者営業ツール作成 1月16日(木)当日資料作成、広報、ゲストとの打合せ 〈実施後の業務〉 1月20日(月)出演者支払計算書等資料整理、報告書作成 1月21日(火)報告書作成、謝金支払い手続き等 1月22日(水)報告書作成 1月23日(木)報告書作成 1月27日(月)報告書作成 1月28日(火)アンケート集計 1月29日(水)報告書作成 2月3日(月)アンケート集計 2月6日(木)ダイアログ議事録出演者確認作業 2月28日(金)ダイアログ報告書作成 3月19日(水)報告書最終仕上げ、確認 ※詳細については別添資料５「「持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議」MSH(マルチステークホルダー)ダイアログ　協働とESD～サステナブルな社会を「本気」でつくる～報告書」参照
協働パートナー	運営会議委員、自治体、中間支援組織、協働事業の主体及び関係者
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	昨年度のメッセ、今年度のマルチステークホルダーダイアログを実施しての成果は、中部7県という広いエリアで、同じミッションを持って活動している人たちと「顔の見える関係」になってきたことである。共通課題を持つ主体とともに、その打開策を考える場を持つことができ、議論の内容も具体性を帯びてきている。今年度は、自治体参与の方や金融機関の方をお招きし、新たな視点でのアドバイスやジャッジをしていただいた。今後は、「課題と認識していない人、気づいていない人とどうつながる」か、どう巻き込んでいくかが重要となる。今回の３ダイアログの共通課題であった。 自治体、金融機関、学校や、課題を認識していない市民、認識していてもつながっていない市民の共感を得て、「公共性の高い、みんなが理解し納得する事業にどう展開していくか」である。私たちの思いや理念の公共性をいかに強めていくかである。そ

	のことによって経済性も育まれる。公共性と経済性は対立軸のようだが、この融合を可能にするのが「協働」であると認識することができた。

④地域におけるESDの普及啓発と取組推進支援

ｉ 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラム作成・展開業務支援	
目的	中部7県において「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラムの作成・展開業務」(環境省)の支援を行い、地域のESD実践の推進を図る。持続可能な社会を担う人材づくりの先進地域を形成する。
事業概要	下記の業務を行う受託事業者の支援を行う。 ①環境省がとりまとめたモデル的なESDプログラムを基に、各県の地域性を踏まえた小中学生向けのESDプログラムを作成・実証する。 ②各県でワークショップを開催し、有識者からの意見を得て、作成したプログラムを教育現場等で実践・実証する。 ③上記を実施するための実行委員会の設置、各都道府県に多様なステークホルダーによるワーキンググループを設置する。 ④広くマスコミ等を活用し、普及する。
事業内容	[ESD環境教育モデルプログラム採択団体のヒアリング] ESD環境教育プログラムに応募した、中部7県採択団体へのヒアリングを行い、動機や現状、活動内容及び申請内容を把握し、関係性を育んだ。 5月22日(水)愛知国際理解教育ステーション(愛知) 豊田市立西広瀬小学校(愛知) 5月26日(日)環境ボランティアサークル亀の子隊(愛知) 6月28日(金)富山市立中央小学校(富山) [ESD人材育成事業支援] ESD環境教育プログラム作成・展開事業の公募に関する相談が数件あり、情報提供及び企画相談を行った。８月に本事業の受託団体(㈱TREE)が決定し、打合せを行い、事業の進め方、役割分担等を協議した。また各県実施校及びワーキンググループメンバー・形成推進委員会委員・実施校の依頼・説明、調整、北陸・長野においてはコーディネーターの依頼・説明など、それに伴い書類作成、交渉等事務作業、ワーキンググループ開催のための事務作業、開催など支援を行った。 各県のESD授業実践に向けて、各県でのワーキンググループ会議、環境映像の打合せ、撮影同行、学校やゲストティーチャーやワーキンググループメンバーとの調整・情報共有、形成推進委員会の準備・実施、協定書や全国関係者会議への資料作成、マスコミへの取材依頼などの支援を行った。 6月27日(木)長野県ESD活動状況ヒアリング：松本大学中澤氏 6月28日(金)富山県ESD活動状況ヒアリング、本田氏・富山県立大学教授九里氏 7月26日(金)㈱TREE打合せ 7月30日(火)㈱TREE・地方事務所打合せ 8月11日(日)北陸地域での展開についての打合せ 8月11日(日)東海・北陸ユネスコスクール交流会参加

	8月17日(土)18日(日) 開発教育協議会北陸地域ESD研修参加 8月17日(土)北陸地域打合せ支援 8月18日(日)北陸地域打合せ支援 8月19日(月)岐阜ユネスコスクール説明会参加、岐阜県小林氏打合せ 8月28日(水)三重大学、三重県庁、寺田氏説明及び打合せ 9月2日(月)愛知県打合せ 9月4日(水)岐阜県庁打合せ 9月5日(木)三重県名張市教育委員会、三重県教育委員会説明・協力依頼 9月5日(木)愛知県甚目寺小学校協力依頼 9月9日(月)朝日新聞取材依頼 9月10日(水)北陸地域打合せ 9月11日(水)三重県矢口氏打合せ 9月12日(木)岐阜県への説明及び協力依頼 9月13日(金)愛知県甚目寺小学校小学4年生担任への説明・協力依頼 9月14日(土)愛知県東浦町緒川小学校説明・依頼 9月17日(火)三重県名張市全小中学校対象プレゼンテーション 9月19日(木)富山県第1回WG会議 9月26日(木)愛知県緒川小学校説明及び協力依頼 9月27日(金)長野県に関する打合せ 10月2日(水)愛知県・名古屋市へのＷＧ説明・協力依頼 10月3日(木)福井県への相談・協力依頼・富山県第2回WG会議 10月4日(金)富山県における協力依頼・石川県における報告・協力依頼・石川県第1回ＷＧ会議 10月8日(火)岐阜県における相談・報告・協力依頼・岐阜県第1回WG会議の開催 10月9日(水)愛知県第1回WG会議 10月12日(土)福井県における協力依頼・打合せ 10月15日(火)長野県における協力依頼 10月16日(水)愛知県における授業づくりの相談・協力・打合せ 10月22日(火)三重県第1回WG会議 10月23日(水)朝日新聞社取材依頼訪問 10月25日(金)富山県映像打合せ・全国ESD関係者会議(東京) 10月28日(月)富山県第1回実証授業・富山新聞社取材依頼及び対応 11月1日(金)長野県第1回ＷＧ会議、長野県環境保全協会、松本市環境政策課、松本市教育委員会打合せ 11月6日(水)全国関係者会議(東京)㈱TREE・打合せ 11月7日(木)石川県第2回WG会議・㈱TREE打合せ 11月8日(金)形成推進委員会開催、福井県第1回ＷＧ会議 11月11日(月)㈱TREE打合せ 11月13日(水)長野県に関する打合せ、㈱TREE打合せ、愛知県第2回WG会議(映像打合せ) 11月15日(金)富山県映像打合せ 11月19日(火)愛知県実証授業実施、第3回WG会議及びふりかえり

	11月21日(木)長野県映像撮影・打合せ 11月25日(月)富山県第2回実証授業実施、富山県第3回WG会議及びふりかえり 11月27日(水)三重県第2回WG会議 11月28日(木)長野県第2回WG会議 12月12日(木)全国関係者会議(東京) 12月17日(火)長野県実証授業実施、岐阜県第2回WG会議 12月24日(火)岐阜県教育委員会訪問、岐阜県授業内容打合せ 12月25日(水)岐阜県授業内容打合せ 12月27日(金)三重県授業内容と映像打合せ 1月6日(月)WGアンケート集計、福井県WG会議日程調整 1月7日(火)福井県WG会議案内送付・石川県スケジュール調整・連絡 1月8日(水)岐阜県取材依頼(岐阜新聞社)、福井県第2回WG会議資料作成 1月9日(木)岐阜県アンケート作成・データ送付、福井県WG会議 1月10日(金)岐阜県実証事業(授業)実施資料等準備・連絡・調整 1月14日(火)長野県発表会案内、石川県スケジュール等案内、岐阜県授業実施・ふりかえり 1月15日(水)岐阜県新聞掲載記事連絡・送付、長野県発表会資料準備、福井県WG議事録作成、岐阜県・石川県アンケート作成 1月16日(木)岐阜県アンケート送付・連絡、石川県授業実施資料準備、アンケート送付、連絡・調整、長野県普及啓発事業ふりかえり 1月17日(金)愛知県普及啓発事業 1月20日(月)石川県実践事業(授業)実施・ふりかえり、岐阜県実践事業(授業)実施・ふりかえり、三重県アンケート作成 1月21日(火)三重県資料準備、石川県授業実施報告書作成、福井県アンケート作成、連絡・調整 1月22日(水)三重県実践事業(授業)実施・ふりかえり、福井県連絡・調整、名張市薦原小学校教員対象ESD研修 1月23日(木)福井県実践事業(授業)実施・ふりかえり、長野県WGアンケート送付・連絡、岐阜県ＷＧアンケート送付、富山発表会配布資料作成 1月24日(金)石川県授業実施報告、ふりかえり記録作成、富山県発表会配布,資料確認・準備 1月25日(土)富山県普及啓発事業 1月27日(月)岐阜県ふりかえり資料作成、石川県WG映像打合せ、授業実施日等連絡 1月28日(火)福井県WGアンケート送付 1月29日(水)富山県古沢小学校アンケート集計、石川県マスコミ依頼文書作成 1月30日(木)三重県WG新聞記事送付・連絡、第2回形成推進委員会案内文書作成 1月31日(金)福井児童アンケート集計、石川県アンケート作成、第2回形成推

	進委員会案内文書送付 2月3日(月)形成推進委員会出席者調整・連絡、福井県アンケート集計、石川県アンケート作成 2月4日(火)石川県資料準備、形成推進委員会出席者調整連絡、事業進捗状況確認資料作成 2月5日(水)石川県実証事業(授業)実施 2月6日(木)WGアンケート督促、石川県・福井県WGアンケート・新聞記事送付、石川県発表会マスコミ依頼文書・開催要項作成・送付 2月7日(金)形成推進委員会資料作成、石川県・三重県発表会開催案内送付 2月10日(月)第2回形成推進委員会開催、準備、報告書打合せ、岐阜県発表会資料作成 2月12日(水)報告書作成作業、教員対象アンケート送付 2月13日(木)福井県鳴鹿小学校教員対象アンケート集計、長野県プログラム作成、三重県発表会資料準備・プレゼンテーション準備 2月14日(金)報告書作成作業、教員対象アンケート送付、ESD人材育成事業GEOC作成ガイドブック原稿作成、伴走支援者パンフ原稿作成 2月15日(土)三重県普及啓発事業 2月17日(月)報告書作成作業、三重県プログラム作成 2月18日(火)薦原事例発表におけるアンケート、長森南第２回授業実践アンケート集計、報告書作成作業、石川県プログラム作成 2月19日(水)泉中学校アンケート集計・報告書作成作業、石川県・富山県プログラム作成　石川県発表会資料準備、岐阜県発表会連絡調整、福井県発表会アンケート作成 2月20日(木)報告書作成作業、富山県プログラム作成、石川県普及啓発事業、福井県発表会連絡調整・資料準備、WG謝金振込準備 2月21日(金)報告書作成作業 2月22日(土)岐阜県普及啓発事業 2月23日(日)福井県普及啓発事業 2月24日(月)報告書作成作業、添付資料確認修正、福井県発表会報告書作成、岐阜県アンケート集計、GEOC作成ガイドブック原稿作業 2月26日(水)報告書作成作業 2月27日(木)報告書作成作業 2月28日(金)報告書作成作業、最終確認・打合せ 3月11日(火)運営会議用報告資料作成 3月12日(水)運営会議報告書用資料作成 3月13日(木)運営委員会用報告資料作成 3月19日(水)ホームページ用ESD人材育成事業原稿修正 3月24日(月)新聞掲載記事送付 3月25日(火)請求書作成業務 [ESD人材育成事業広報媒体作成支援] 2月13日(木)毎日新聞広告原稿作成

	2月18日(火)毎日新聞広告原稿作成 2月19日(水)毎日新聞広告原稿作成 2月25日(火)GEOC作成ガイドブック原稿作成、報告書作成作業 2月26日(水)GEOCガイドブック原稿作成、提出書類等送付 2月27日(木)GEOC作成ガイドブック原稿作成 2月28日(金)GEOC作成ガイドブック原稿作成 3月3日(月)GEOC作成ガイドブック製作作業 3月4日(火)GEOC作成ガイドブック製作作業、ESD情報交換、毎日新聞広最終原稿修正作業 3月5日(水)GEOC作成ガイドブック製作及び学校への確認作業 3月6日(木)GEOC作成ガイドブック製作作業 3月7日(金)GEOC作成ガイドブック作成最終原稿確認 3月12日(水)ガイドブック製作作業入稿データ最終確認作業・各県学校資料確認依頼・送付 3月14日(金)GEOC作成ガイドブック製作作業入稿データ最終確認作業・修正 3月17日(月)GEOC作成ガイドブック製作作業入稿データ最終確認作業・修正・送付 3月20日(木)マイECO原稿確認、毎日新聞原稿作成 [EPO中部発行「ESD人材育成事業レポート」作成] 3月5日(水)原稿編集 3月７日(金)原稿編集 3月12日(水)作成 [他関連取組] 10月25日(金)全国ESD関係者会議(東京) 2月18日(火)全国ESD関係者会議(東京)
協働パートナー	中部７県でモデル事業採択となった団体等、各県担当者、教育委員会、小中学校、NPO/NGO、運営会議委員、地方事務所など
評価指標・方法	指標・方法については、各県ワーキンググループ及び実行委員会と検討
成果・評価	「学校と地域が離れつつある今、子ども、教員、地域住民のつながりが切れ始めているこの状況を結びなおし、子どもを取り巻く大人が、「学ぶことの本質」に触れ、「学びあい、育ちあう」空間、コミュニティ形成の作り手になる」、その可能性を検証することがこの事業のEPOが支援するねらいであった。ESDを推進するオーナーシップの形成である。事業の中の重要な支援は、関係者の「参加」であり、色々な場面で、子どもたちの参加、地域の人々の参加、関係者の参加を可能にする設計の支援をしてきた。そのことによって、授業を実施した教員やゲストティーチャー、授業を受けた子どもたち、授業づくりや授業発表会に参加した地域住民が「当事者」であることに気づき、地域の学習、ESDが自分ごとになった。次なる課題は、気づいた人々が「実践をしやすくなる環境」をつくること、まだ気づいていない人が「気づく環境」を作ることである。その課題をどう改善していくかについて、今後関係者との対話を深め、具体的行動に移していく。

ii 普及啓発・研修	
目的	＊認知度の向上 ＊実践を進める学校やNPO/NGOの連携強化 ＊学校と地域の連携による実践の拡大 ＊自治体(教育委員会含)の政策や企業の取組強化
事業概要	(ア)ESD研修の講師(ESD実践者拡大のための講座等の実施) 昨年度まで協働で実施していた愛知県総合教育センターでのESD研究会参加校のさらなるESD実践拡大のための研修講師として実施。 ①愛知県立刈谷高等学校ESD講座 ②授業力・教師力アップセミナー(岡崎市教育委員会) ③教頭研修会(岡崎市教育委員会) ④刈谷市環境支援員育成講座(刈谷市) ⑤愛知県立愛知商業高等学校教員対象ESD研修 ⑥教師力パワーアップ研修(愛知県あま市教育委員会) [他講師依頼]講師を引き受け、地域における協働展開を提案する。 ＊愛知県総合教育センター高等学校及び特別支援学校初任者研修 ＊愛知淑徳大学文学部教育学科小島ゼミナール「ESD講座」 ＊環境未来探検隊アドバイザー(名古屋市教育委員会)他 (イ)なごや環境大学との協働による「ESD講座」「ESD推進チーム」の実施 ＊子どもが主役のESDワークショップ ＊環境デーなごや2013 ＊ESDカフェ ＊他ESD関連講座アドバイザー (ウ)各種ESD関連イベントへの参加・支援、ESD実践普及のためのコンサルティング、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等
事業内容	ESD研修のアドバイス及び実施、広報ツール作成支援、企業のESD講座企画の実施、ESDイベント企画協力などを行った。研修においてはアンケートをとり参加者の感想意見を抽出している。他ESD取組促進のための打合せを行った。 (ア)ESD研修の講師(ESD実践者拡大のための講座等の実施) [学校、行政関係】 4月30日(火)豊田市立藤岡南中学ワークショップ、企画作成・スタッフ調整・打合せ・準備・資料作成・授業実施・報告書作成 4月17日(水)愛知県立刈谷高校ESD講演、資料作成・送付、準備 ５月16日(木)愛知淑徳大学ESD講座、資料作成準備・実施 6月15日(土)刈谷市環境支援員研修、打合せ・資料作成 6月23日(日)環境未来探検隊発足式講演、名古屋市教育委員会と打合せ・資料作成 7月1日(月)愛知県立愛知商業高等学校ESD研修、打合せ・資料作成・アンケート集計 7月9日(火)愛知県総合教育センター特別支援学校初任者研修、企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計 7月23日(火)・25日(木)岡崎市立常盤南小学校ESD授業づくり検討会、企画

	作成・打合せ・資料準備 7月31日(水)岡崎市教育委員会授業力・教師力アップセミナー、企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計 7月31日(水)甚目寺小学校教員研修参加 8月3日(土)東海個性化教育研究会シンポジウム、企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計 8月6日(火)岡崎市教育委員会教頭対象ESD研修会、企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計 8月9日(金)豊田市職員ESD研修、企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計 8月10日(土)岐阜県国際交流協会ESD研修、企画作成・打合せ・資料準備 8月26日(月)あま市教育委員会教師力パワーアップ研修(ESD)、企画作成・打合せ・資料準備 10月16日(水)岡崎市立常盤南中学校研究発表会視察 10月17日(木)岡崎市立六ッ美小学校ESD授業視察 10月31日(木)岡崎市立新香山中学校学校発表会打合せ 11月5日(火)岡崎市立新香山中学校学校発表会視察 12月2日(月)愛知県立豊田東高校ESD講座 12月16日(月)愛知県立愛知商業高校ESD講座 12月19日(木)名古屋市立名東高校次年度ESD授業カリキュラム検討会議 1月6日(月)私立光ヶ丘高校ESD授業準備・資料送付 1月8日(水)ESD講座資料送付 1月9日(木)光ヶ丘高校ESD講座 1月15日(水)名古屋市立南陽中学校１年生来訪準備 1月17日(金)名古屋市立南陽中学校１年生来訪 1月17日(金)岡山市自治体研修企画作成 1月21日(火)愛知県総合教育センターESD研修資料作成・送付 1月24日(金)あま市立甚目寺小学校ESD公開授業、あま市新任者教員研修、グローバルESD対話フォーラム資料作成 1月26日(日)中部ESD推進協議会グローバルESD対話フォーラム 1月27日(月)愛知県総合教育センター研修準備、資料作成 1月28日(火)愛知県総合教育センター高等学校新任教員研修 1月29日(水)あま市立甚目寺小学校ESD講座アンケート集計 2月12日(水)岡山市自治体研修資料作成、尾張旭市提案資料作成 2月12日(水)愛知県立豊田東高等学校発表会参加 2月13日(木)岡山市自治体研修資料作成・資料発送 2月14日(金)尾張旭市教育委員会・尾張旭市立旭小学校相談 2月17日(月)岡山市ESD研修 2月21日(金)名張市立薦原小学校教員対象ESD講座アンケート集計 3月17日(月)北九州ESDフォーラム資料作成 3月20日(木)北九州ESD協議会講演資料作成 3月21日(金)北九州ESD協議会総会出席

	［ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会］ 〈愛知県自治体職員ESD研修〉 7月23日(火)愛知県自治体職員ESD研修参加 8月7日(水)愛知県自治体職員第1回ESD研修、企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計 9月10日(火)愛知県自治体職員第2回ESD研修、企画作成・打合せ・資料準備 11月8日(金)愛知県自治体職員ESD研修の資料作成・準備 11月11日(月)愛知県自治体職員ESD研修資料作成 11月12日(火)愛知県自治体職員第3回ESD研修(豊橋市) 11月18日(月)愛知県自治体職員第4回ESD研修(名古屋市) 11月29日(金)愛知県自治体職員ESD研修資料作成 12月2日(月)愛知県自治体職員ESD研修資料作成 12月3日(火)愛知県自治体職員ESD研修打合せ 12月5日(木)愛知県自治体職員第5回ESD研修(一宮市) 12月11日(水)愛知県自治体職員ESD研修報告書作成監修 12月12日(木)愛知県自治体職員ESD研修報告書作成監修打合せ 12月13日(金)愛知県自治体職員ESD研修報告書作成監修作業 12月17日(火)愛知県自治体職員ESD研修報告書監修作業 12月24日(火)愛知県自治体職員ESD研修報告書監修作業 12月25日(水)愛知県自治体職員ESD研修報告書監修作業 12月27日(金)愛知県自治体職員ESD研修報告書監修作業 1月30日(木)愛知県自治体研修ガイドブック原稿校正 2月14日(金)自治体職員ハンドブック校正 ［企業対象］ 〈環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)〉 10月10日(木)EPOCESD講座に関する打合せ 10月17日(木)　EPOCESD講座打合せ・資料作成 10月21日(月)　EPOC ESD講座 〈ユニー㈱〉 4月20日(土)ユニー(株)、ESD説明会、ESD事業展開打合せ 11月11日(月)ユニー㈱インタープリター養成講座ESD講座打合せ 12月14日(土)ユニー㈱インタープリター養成講座ESD講座 〈名古屋商工会議所〉 12月6日(金)名古屋商工会議所ESD講座打合せ 12月13日(金)名古屋商工会議所ESD講座資料作成 12月17日(火)名古屋商工会議所ESD講座 ［その他］ 7月6日(土)藤前干潟を守る会ESD講座、企画作成・打合せ・資料準備 8月24日(土)愛知県技術士会ESDセミナー企画作成・打合せ・資料準備・アンケート集計

	10月21日(月)中部ESD推進会議ESD講座打合せ 11月11日(月)尾張旭市地域活性化協議会ESD講座資料作成等 11月16日(土)尾張旭市地域活性化委協議会ESDフォーラム 11月29日(金)三重県環境学習情報センターESD講座資料作成 12月1日(日)三重県環境学習情報センターESD講座 12月3日(火)三重県環境学習情報センターESD講座アンケート集計 (イ)なごや環境大学との協働による「ESD講座」「ESD推進チーム」の実施 なごや環境大学との共催講座あるこどもESDワークショップの企画打合せ、ESDカフェ企画運営協力、環境デーなごや2013企画打合せ・実施を行った。名古屋市環境学習センターエコパルなごやフェアトレード展支援、なごや環境大学ガイドブックESD記事原稿作成、ESDに関するコンサートに関する打合せや開催をした。 [ESD推進チーム会議等] 5月24日(金)ESDチーム会議 7月26日(金)ESDチーム会議 10月30日(水)ESD推進チーム会議 12月11日(水)なごや環境大学ESDチーム会議 1月30日(木)なごや環境大学ESD事業計画作成 2月21日(金)なごや環境大学ESD推進チーム会議 10月29日(土)環境活動交流会ESD分科会、企画作成・打合せ・資料作成・広報支援・実施 1月9日(木)なごや環境大学ガイドブックESD記事原稿作成 3月6日(木)なごや環境大学ESD推進チーム会議 〈こどもESDワークショップ事業〉 5月25日(土)第1回こどもESDワークショップ 7月24日(水)第2回こどもESDワークショップ 8月21日(水)第3回こどもESDワークショップ 9月14日(土)環境デーなごや、第４回こどもESDワークショップ 11月9日(土)第５回こどもESDワークショップ 12月25日(水)なごや環境大学こどもESDワークショップ2014打合せ 2月27日(木)なごや環境大学こどもESDワークショップ2014打合せ 〈ESDコンサート事業〉 11月７日(木)ESDコンサート打合せ 11月11日(月)ESDコンサート打合せ 12月2日(月)ESDコンサート打合せ 12月8日(日)ESDコンサート (ウ)各種ESD関連イベントへの参加・支援、ESD実践普及のためのコンサルティング、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等 [ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会] 〈あいち・なごやESDフェスタ事業〉 9月14・15日(土・日)あいち・なごやESDフェスタ出展

	10月10日(木)あいち・なごやESDフェスタ企画に関する打合せ 11月22日(金)あいち・なごやESDフェスタin尾張搬入 11月23・24日(土・日)あいち・なごやESDフェスタin尾張 11月30日・12月1日(土・日)あいち・なごやESDフェスタin豊田 〈ESDイヤーキックオフイベント地球市民村ラーニングプログラム〉 12月4日(水)プログラム企画検討会議 12月11日(水)打合せ 12月12日(木)打合せ 12月13日(金)プログラム企画 12月16日(月)プログラム情報収集 12月17日(火)プログラム企画検討会議 12月18日(水)プログラム情報収集 12月26日(木)打合せ 12月27日(金)プログラム企画会議 1月6日(月)プログラム企画調整・資料作成 1月8日(水)プログラム企画作成・調整 1月10日(金)プログラム企画作成・打合せ、配布資料準備 1月13日(月)実施 2月20日(木)ラーニングプログラム報告書作成支援 3月7日(金)ラーニングプログラム報告書確認 3月19日(水)ラーニングプログラム原稿修正 〈子どもESD会議事業など〉 1月20日(月)ESD子ども会議打合せ、ESD広報についての打合せ ESDリーフレット監修 [名古屋市] 10月9日(水)「広報なごや」ESD特集号編集会議 10月17日(木)「広報なごや」ESD特集号紙面作成打合せ 10月23日(水)「広報なごや」ESD特集号紙面作成打合せ 10月31日(木)「広報なごや」ESD特集号紙面作成打合せ 11月14日(木)「広報なごや」ESD特集号紙面作成打合せ 11月15日(金)「広報なごや」ESD特集号紙面作成打合せ 2月12日(水)名古屋市企画ESD事業打合せ [ESD写真展] 6月15・16日(土・日)ESD写真展、企画書作成、打合せ資料作成・準備・スケジュール準備物の調整・配布物作成・搬入・実施 11月26日(火)ESD写真展(宮嶋先生)相談 12月10日(火)ESD写真展打合せ 12月13日(金)ESD写真展企画に関する講師紹介及びコンセプトづくり 12月20日(金)ESD写真展打合せ 12月27日(金)ESD写真展トークショーゲスト交渉 1月6日(月)ESD写真展講師の調整・企画書作成 1月8日(水)ESD写真展企画作成・講師紹介 1月31日(金)ESD写真展企画・講師調整

	2月3日(月)ESD写真展打合せ 7月26日(金)ESD写真展打合せ 3月26日(水)ESD写真展打合せ [他] ＊地球のゆかいな仲間たちへの支援 12月13日(金)セヴァン・スズキ氏来日イベント会議出席 1月14日(火)セヴァン・スズキイベントの準備、尾張旭市教育長の依頼対応 1月15日(水)セヴァン・スズキ氏イベント広報・小中学生の参加広報 2月14日(金)セヴァン・スズキ氏講演会(LOVE is the Movement！名古屋ツアー2014) 2月13日(木)セヴァン・スズキ講演会資料準備 3月13日(木)反省会 3月13日(木)振り返り会 ＊WeChubuへの支援 6月20日(木)WeChubu会議支援 10月30日(水)WeChubu会議 2月7日(金)WeChubu会議支援 2月9日(日)WeChubuあいち学生森コンin金城学院大学支援 ＊他 4月12日(金)中信地区環境教育ネットワーク総会参加 5月11日(土)世界フェアトレードデー・なごやパネルディスカッション参加 6月9日(日)日本福祉大学講演会シンポジウム参加 6月11日(火)蒲郡市ESDに関する情報交換会参加 ６月29日(土)JICA集団研修参加 6月14日(金)愛知県環境創造研究センターESD講演会参加 7月18日(木)JICA集団研修「産業技術教育」コース参加 10月18・19日(金・土)岡山ESDの10年・地球市民会議2013参加 10月24日(木)文部科学省ESD冊子「ESDクエスト」収集配布 10月29日(火)ESD資料収集 11月18日(月)ESDキッズ及び次年度ESD人材育成事業に関して打合せ 12月1日(日)ユネスコスクール全国大会(多摩市)への派遣 12月10日(火)環境学習施設でのESDプログラムに関する打合せ 12月19日(木)川崎市環境総合研究所フェアトレードとESDについてヒアリング 1月24日(金)中部ESD推進協議会シンポジウム打ち合わせ 1月27日(月)小学生を対象にしたESD授業プログラム作成支援 1月28日(火)ESD授業実施団体の調整、名古屋市立名東高校コンサルティング作業・調整、三重県雲出川流域ESD活動している団体調査 1月30日(木)ESD授業プログラム実施者調整作業 2月22日(土)ESDKIDSFES参加 3月3日(月)愛知教育大学「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」プロジェクト成果報告会外部評価委員として参加 3月13日(木)5/10フェアトレードデー打合せ 3月24日(月)愛知教育大学「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづ

	くり」プロジェクト外部評価報告書作成 3月26日(水)市邨高等学校次年度ESD授業コンサルティング
協働パートナー	なごや環境大学、ユネスコスクール、愛知県総合教育センター、NPO/NGO、自治体、企業、高等教育機関他
評価指標・方法	指標：認知度理解度の向上、実践取組の拡大など 方法：ステークホルダーとスタッフによる事業評価(アンケートなど)
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	多様な主体と協働し、ESD周知のための企画を実施した。特に愛知県自治体職員のESD研修やキックオフイベントへの参画などESD支援実行委員会との連携は重要であった。学校関係者、フェアトレード関係の団体との連携も強まりつつある。各主体の特色、強みを活かしたESD事業の提案をした。次年度も継続する。

iii 普及啓発リーフレットの作成等	
目的	中部7県においてESDの実践を進めている団体、学校、教育委員会等の紹介、ESDの歴史、概念、情報を掲載した冊子などを発行する。他普及啓発のためのツールを作成する。
事業概要	未来をつくる「わたし」のESD　Action　B５版フルカラー　印刷数3000部。 一般市民を対象にしたESD普及・啓発用ツールの企画を作成する。
事業内容	未来をつくる「わたし」のESD　Actionは3000部印刷、ESD実践者等へ配付した。 また、一般市民を対象にしたESD普及ツールの作成・印刷を行った。 ESDBOOK　変形(シール付)　2000部印刷 ESDBOOKパネル　8枚(内1枚をワークショップに使用するマグネットボードにした) 1月6日(月)リーフレット原稿作成 1月7日(火)パネル・リーフレット打合せ 1月8日(水)リーフレット原稿作成 1月10日(金)パネル・リーフレット打合せ 1月15日(水)リーフレット・パネル原稿作成 1月20日(月)リーフレット・パネル作成打合せ 1月27日(月)リーフレット・パネル原稿入稿 2月4日(火)リーフレット・パネル打合せ 2月7日(金)リーフレット・パネル作成打合せ 2月12日(水)リーフレット・パネル用ロゴマーク申請書類作成 2月13日(木)リーフレット修正 2月18日(火)リーフレット修正 2月20日(木)リーフレット最終原稿確認とワークショップ対応企画検討 2月26日(水)パネル原稿校正 2月28日(金)リーフレット完成

	3月14日(金)パネル完成
協働パートナー	中部７県でモデル事業採択となった団体等、各県担当者、教育委員会、小中学校、NPO/NGO、運営会議委員、地方事務所など
評価指標・方法	配布数及び配布先の評価
成果・評価	今年度ESDに関するイベントが多く開催され、これまで作成したESD冊子をかなりの量配布をした。また、一般市民、小学生に理解できるレベルでのESD普及ツールが必要であるとのことから、ESDBOOK(シール付)を紙媒体とパネルを作成し、イベントなどで活用をしている。

⑤外部資金事業(外部組織より協働事業の提案を受けて実施する支援事業)

ｉ日本郵便株式会社　平成25年度年賀寄付金配分「中部地区でのクレジット利用の促進による持続的な地域の発展のための小冊子作成・配布事業」(新規)	
目的	カーボン・オフセットの仕組みを地域に普及させ、地域の低炭素化を促進する。
事業概要	中部地区のクレジット利用の促進による持続的な地域の環境保全と経済活動の両立を目指して、カーボン・オフセットをわかりやすく紹介する小冊子の作成及び地元企業ネットワークを活用した配布活動に取り組む。
事業内容	カーボン・オフセットに関わる専門家、絵本専門家にヒアリングを行い、企画書作成等作業を支援した。また、絵本制作会議メンバーの依頼、日程調整、会議・取材のための日程調整・資料作成、ヒアリングまとめ、企画書作成等作業を支援した。イラストレーターとの絵や絵本内容に関する打合せ、絵本全体のデザインに関する打合せ、絵本の見せ方についての打合せや原稿製作・編集・取材対象者の校正・確認作業、入稿などを行い、完成した。絵本のお披露目イベントを企画、実施し、配布先の確保、HPへの掲載を行った。 成果物：「カーボン・オフセット」のえほん　すぅーはぁーのおはなし　2000部印刷 A5/24頁(絵本部分16頁　解説２頁　取材記事３頁　シール付) 5月8日(火)企画会議 5月24日(金)カルビー(株)カルネコ事業部加藤部長ヒアリング 6月7日(金)㈱マルワ取材 7月10日(水)第1回絵本制作会議 8月8日(木)絵本制作事務局打合せ 8月9日(金)絵本制作事務局打合せ 8月27日(火)第2回絵本制作会議 10月1日(火)イラストレーターとの打合せ 10月7日(月)絵本制作打合せ(メルヘンハウス) 10月16日(水)絵本制作打合せ(メルヘンハウス) 10月21日(月)絵本デザイン打合せ(HIME企画)

	10月22日(火)絵本制作事務局打合せ 10月23日(水)絵本制作成打合せ(原田氏)、イラストレーター制作打合せ 10月31日(木)イラストレーターとの打合せ 11月8日(金)絵本作成打合せ 11月20日(水)絵本初校入稿 12月9日(月)絵本最終確認(原田氏・三輪氏) 12月19日(木)絵本最終校正・校了 1月21日(火)絵本発送作業 1月24日(金)絵本発送作業 2月7日(金)絵本発送作業 2月13日(木)絵本発送作業 3月3日(月)絵本発送作業 3月4日(火)完了会計報告書作成 3月5日(水)報告書作成 3月6日(木)絵本発送作業 3月7日(金)報告書作成、絵本発送作業 3月18日(火)報告書作成 3月20日(木)報告書作成 3月24日(月)報告書作成支援 3月25日(火)報告書作成支援 〈冊子掲載取材〉 8月16日(金)稲沢ローズ 8月19日(月)東白川村森林組合、加子母森林組合 8月20日(火)ブランシュたかやまスキーリゾート、小林りんご園 〈配布先〉 稲沢ばら、株式会社環境思考、高知県、三重県大台町宮川総合支所産業室、株式会社中日BB、三菱UFJリース株式会社、小林りんご園、ブランシュたかやまスキーリゾート、加子母森林組合、東白川村森林組合、カルビー株式会社カルネコ事業部、エシカル・ペネロープ株式会社、株式会社メルヘン・ハウス、環境省中部地方環境事務所、越の国自然エネルギー推進協議会、株式会社ナックプランニング、安江工務店、なごや環境サポーターネットワーク、愛知県環境部大気環境課地球温暖化対策室温暖化対策グループ、東郷町立音貝小学校他ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO、ESD関連のイベントにて配布
資金	4,000,000円(外部資金)
協働パートナー	中部カーボン・オフセット推進協議会
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。

成果・評価	当初、どのように伝えるかの検討に非常に時間がかかったが、シンプルにコンセプトをまとめ、手に取ってみたくなるイラストにより、配布したイベントなどで非常に好評である。「カーボン・オフセット」を伝えるのに、わかりやすくて活用できる」といった声をいただき、大台町においては町内すべての幼稚園、小学校に配布いただいた。今後より利用価値を高めるために、絵本を活用した活動企画、授業案の作成、カーボン・オフセット商品とセットでの配布など、カーボン・オフセットのさらなる普及を進める。

ii 中・西日本地域における特定地域協議会支援	
目的	カーボン・オフセットの仕組みを地域に普及させ、地域の低炭素化を促進する。
事業概要	カーボン・オフセットについて広く普及啓発を行い、自治体、民間企業、NPO等の緩やかなネットワーク形成を支援する。メールマガジンの発行、HPによる情報提供を行う。
事業内容	事務局会議を行い、今年度の申請する事業内容についての協議及びカーボン・オフセットEXPO、メッセ名古屋での出展、長野・北陸地域での普及啓発セミナーについての協議を行った。カーボン・オフセットEXPOにおける絵本イベントの企画書づくり、出演者交渉、他議事録作成など事務作業を支援した。企業からカーボン・オフセット自販機の普及についての相談があり、展開について協議した。12月には「ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO」を開催し、多くの出展者とともにカーボン・オフセットの周知啓発に取り組んだ。他メルマガ原稿作成支援を行った。 [中部カーボン・オフセットEXPOの開催支援] 〈実施内容]] 日時：平成26年1月31日(金)13:00～17:00 場所：ナディアパーク　アトリウム 出展者：42団体 来場者：300名 主催：中部カーボン・オフセット推進ネットワーク 後援：愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、長野県、名古屋商工会議所、環境省中部地方環境事務所、環境省中部環境パートナーシップオフィス 〈プログラム〉 ・ステキな絵本つくりました！音楽・絵本トークの時間 ・専門家に聞いてみよう ・カーボン・オフセット大賞紹介・ブース紹介 ・カーシェアリングモニターの実施と結果発表 ・カーボン・オフセットへの取組紹介 〈事前準備〉 1月6日(月)絵本お披露目イベント企画作成 1月21日(火)絵本お披露目イベント事前打合せ、イベント企画書作成

	1月27日(月)絵本お披露目イベント事前準備 1月28日(火)絵本お披露目イベント資料等事前準備 1月30日(木)絵本お披露目イベントアンケート作成、事前打合せ、会場確認、当日資料準備 1月31日(金)絵本お披露目イベント準備 1月10日(金)ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO出演依頼調整 1月14日(火)ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO 出演依頼調整 2月10日(月)絵本アンケート結果修正 〈事後業務〉 2月4日(火)イベント出演者への事務処理 2月5日(水)イベント出演者への事務処理 2月6日(木)アンケートデータ集計、絵本発送作業 2月14日(金)議事録作成 2月26日(水)報告書作成 3月7日(金)請求書作成 3月20日(木)請求書等作成 3月25日(火)請求書作成支援 [アドバイザリーボード会議] 9月24日(火)アドバイザリーボード会議出席 ３月24日(火)アドバイザリーボード会議出席 [事務局会議] 12月13日(金)、1月7日(火)、1月31日(金) 〈契約前の今年の事業企画についての打ち合わせ〉 4月18日(金)、5月21日(火)、６月18日(火)、7月16日(火)、8月5日(月) [他] 11月13日(水)メッセなごや出展支援 メールマガジン発行11月(1回)12月(2回)1月(1回)計4回 登録者265件
資金	3,000,000円(外部資金)
協働パートナー	中部カーボン・オフセット推進協議会(外部資金)、株式会社ウェイストボックス
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	昨年度に引き続き一般市民を意識したマッチングイベントの開催を支援した。市民向けコンテンツを配置したイベントの前半部分では、足を止める一般市民も多く場内での滞留もみられた。また、子育て世代の主婦など当初こちらで取組みについて知って欲しいと思う層の来場もあった。また42団体が出展をし、カーボン・オフセットの取組が根付くための関係者の情報交流を行うことができた。カーボン・オフセットへの認知度が少しずつ高まってきている。より一般市民を対象にしたアプローチを検討していく。

iii 中部ESD拠点2014プロジェクト第2プロジェクト(継続)	
目的	学校と地域が連携したESDカリキュラム作成のための支援
事業概要	＊高等学校ESDコンソーシアムの支援 ＊2014年に向けたNPO/NGOとの意見交換会の実施 ＊愛知県内のユネスコスクールの交流の場の支援
事業内容	愛知教育大学宮川氏に本プロジェクトに参画いただくことになり、これまでの動きの情報共有、今後の展開について意見交換をした。高等学校ESD愛知コンソーシアムと連携し、ESD実践をしている高等学校による経験交流会『高校生ESDコンソーシアムin愛知』を開催した。今年度は高校生による企画づくり、当日運営で行われた。 2014年に向けた意見交換会については「自己肯定感とESD」をテーマに意見交換をし、提案書及び実証授業の可能性を検討している。3月には小中学校、高校の教員を招いて、学校教育における自己肯定感のプログラムについて等の意見交換をした。会議に使用する資料及び情報収集を行った。愛知県内のユネスコスクール等交流会では、文部科学省からの情報提供、幼稚園、小中学校、高校、特別支援校による活動紹介とディスカッション等が行われた。 **[高校生ESDコンソーシアムin愛知イベント開催支援]** 〈実施内容〉 日時：平成26年2月28日(土)9:30～15:30 場所：名古屋大学野依記念学術交流館 参加者：125名(生徒78名、教員37名、他10名) 〈プログラム〉 ＊各校活動発表 ・名古屋大学教育学部附属中・高等学校「モンゴルの環境汚染」 ・金城学院高等学校「Act Locally、 Act Globally～国際協力・国際理解～」 ・中部大学第一高等学校「続・ウシモツゴの飼育と繁殖」 ・豊田東高等学校「地域の活性化を目指して～商店街や交流館との連携による取組～」 ・南陽高等学校「Nanyo Company部×地域連携 ～フェアトレード＆カーボン・オフセットで地域活性化！！～」 ・千種高等学校「国際理解と相互理解」 ・久居農林高等学校(三重県) 「森林における二酸化炭素吸収量調査～CO2吸収力の高い森林とその管理方法を探る～」 ＊ポスターセッション ＊講評　UNESCO・ESD　セクションプログラムスペシャリスト　望月要子氏 講評・講演 「私にとってのESD」

	中部ESD拠点協議会 運営委員／EPO中部 新海洋子 [事前準備] 12月20日(金)高校生コンソーシアム打合せ 12月24日(火)高校生コンソーシアム資料作成 [事後ふりかえり] ２月22日(土)高校生コンソーシアム今年度ふりかえりと次年度の検討 **[2014年に向けたNPO/NGOとの意見交換会の実施]** 意見交換会実施のための準備・資料収集・議事録作成、日程調整等を行った。「自己肯定感」に関する情報収集を行い、メンバーのスキルやプログラムを用いて、学校でどのような授業が実施できるかについて協議した。今年度最後の会議では、教員を招き、率直な意見を交わした。 4月18日(木)第１回意見交換会～ESD授業プログラム作りについて1 5月 7日(火)第２回意見交換会～ESD授業プログラム作りについて2 6月11日(火)第３回意見交換会～ESD授業プログラム作りについて3 10月30日(水)第４回意見交換会～ESD授業プログラム提言書作りにむけて 12月19日(木)第5回意見交換会～ESDと自己肯定感についての情報共有 1月29日(水)第6回意見交換会～ESDと自己肯定感について 2月6日(木)第７回意見交換会～ESD授業プログラム提言書作り1 2月27日(木)第8回意見交換会～ESD授業プログラム提言書作り２ 3月17日(月)第９回意見交換会～ESD授業プログラム提言書作り3 **[愛知県ユネスコスクール・ESD交流会(主催：日本／ユネスコパートナーシップ事業)への共催]** 〈実施内容〉 日時：平成26年1月21日(火)13:00～16:30 場所：ウィンクあいち 参加者:約100名 主催：文部科学省、愛知教育大学 共催：中部ESD拠点協議会 後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 対象：県内全ての学校及び関係者 〈プログラム〉 ＊講演 「あなたの毎日が未来になる」 文部科学省国際統括官付国際交渉分析官 岩本渉氏

	＊ユネスコスクール実践発表 ・愛知教育大学附属幼稚園 ・名古屋市立八熊小学校 ・豊橋市立章南中学校 ・愛知教育大学附属高等学校 ・みあい養護学校 ＊意見・情報交換会 コーディネーター：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 教育協力部　部長　柴尾智子氏 〈事前準備・打合せ〉 5月20日(月)愛知教育大学宮川先生ヒアリング 10月8日(火)中部ESD拠点2014プロジェクトに関する打合せ 10月24日(木)中部ESD拠点2014プロジェクト宮川氏と打合せ 10月30日(水)中部ESD拠点2014プロジェクト宮川氏と打合せ 11月17日(日)中部ESD拠点2014プロジェクト宮川氏と打合せ **[他]** **[中部ESD拠点イベントへの参加]** 2月9日(日)中部ESD　DAY **[運営委員会]** 6月12日(水)中部ESD拠点運営委員会 7月10日(水)中部ESD拠点運営委員会 9月2日(月)中部ESD拠点運営委員会 10月8日(水)中部ESD拠点運営委員会 12月6日(金)中部ESD拠点運営会議 12月27日(金)中部ESD拠点会議作業部会 1月29日(水)中部ESD拠点運営委員会 3月26日(水)中部ESD拠点運営委員会 **[事務作業支援]** 6月10日(月)、11日(火)、7月1日(月)、2日(火)、3日(水)、4日(木)、5日(金)、16日(火)、 31日(水)、 8月3日(土)、5日(月)、20日(火)、10月28日(月)、12月2日(月)、12月16日(月)、1月20日(月)2月27日(木)3月3日(月)、5日(水)、14日(金)、17日(月)、20日(木)、24日(月)、25日(火) **[打合せ等]** 4月26日(金)名古屋市立大学ESD事業ヒアリング 10月30日(水)事務局会議支援

資金	600,000円(外部資金)
協働パートナー	高等学校ESD愛知コンソーシアム、NPO法人NIED・国際理解教育センター、NPO法人アスクネット、NPO法人こどもNPO、名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会、NPO法人名古屋NGOセンター開発教育委員会、愛知教育大学、中部ESD拠点運営委員他
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	今年度の高校生ESDコンソーシアムin愛知は、高校性による企画・運営がされ、参加した各高校の特色を活かした、多様な課題設定、視点、手法でのESD活動の発表、議論の場を持つことができた。またパリのユネスコ本部からのゲストを迎えることができ、自分たちの活動が国際社会とつながっていることに気づき、モチベーションがあがったようだ。教員同士の関係性も深まり、次年度のESDユネスコ会議に向けて、さらに積極的事業展開をしたいと発言があり、EPO中部、中部ESD拠点として全面的に支援をする。 ESD2014意見交換会については、この地域でESDの取組を実践している教育に関わるNPOが、昨年より2014年度に開催されるESDユネスコ会議を契機に、さらにESD取組の質の向上及び実践増大に向けての議論を重ねてきた。持続可能な社会をつくるためには「自立」と「共生」が必須であるとし、そのための教育活動とはどのような内容、手法であるかの議論を行った。その結果、自立と共生が実現している社会の作り手・担い手に必要な力は「自己肯定感」であり、その力を育むための学びや体験の機会、学校教育におけるカリキュラムの創出が必須であるという結論に至った。これを主題として教育機関等に提案する提言書の作成を進める。 愛知県ユネスコスクール・ESD交流会は、愛知県内のユネスコスクール、ESDに関心のある幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学級の教員等が約100名集まった。文部科学省や世界会議に向けての情報や他校の具体的な実践は、参加された学校、教員の今後ESD授業づくり、学校経営への有効な情報になった。ユネスコの理念を共有している学校、教員だからこそ、共感しあえる場でもあった。ユネスコスクールではない学校も参加しており、積極的な意見交換がなされ、ESDへの関心が伺えた。 中部ESD拠点の動きが、2014年度に向けて加速化している。第2プロジェクトもゴール設定を明確にして、活動の成果をいかに社会化するかを検討する時期に入る。

ⅳ平成25年度愛知県環境学習コーディネート業務等委託支援(新規)	
目的	愛知県内の主に小中学校と地域(事業者、NPO/NGOなど)をつなぎ、学校教育における環境学習の充実を図るための支援を行う。また、学校と地域をつなぐコーディネーターを育成の支援を行う。
事業概要	総合学習の時間など外部講師の依頼
事業内容	企画作成・チラシ作成・相談業務・依頼先紹介及びヒアリング支援などを行った。相

	談業務、コーディネート業務、コーディネート後の実証授業、企画書類や報告書類の作成、日程調整、アンケート集計等の事務作業を支援した。環境コーディネート研修支援を行った。 [コーディネーター研修] 6月12日(水)コーディネーター研修(1日目) 6月19日(水)コーディネーター研修(2日目) 講師：愛知県環境活動推進課、特定非営利活動法人アスクネット [授業実施支援] 9月19日(木)授業実施支援(半田市立花園小学校) 9月26日(木)講座実施支援(名古屋都市センター) 9月27日(金)授業実施支援(豊田市立東広瀬小学校) 10月11日(金)授業実施支援(弥富市立栄南小学校) 10月24日(木)授業実施支援(豊川市立小坂井東小学校) 10月29日(火)授業実施支援(愛知県立豊田東高等学校) 10月29日(火)講座実施支援(一宮市環境保全課) 11月7日(木)講座実施支援(生活協同組合コープあいち) 11月11日(月)授業実施支援(豊川市立小坂井東小学校) 11月13日(水)授業実施支援(豊田市立小坂井東小学校) 11月14日(木)授業実施支援(半田市立花園小学校) 11月20日(水)授業実施支援(蟹江町立須西小学校) 11月21日(木)授業実施支援(半田市立花園小学校) 11月28日(木)授業実施支援(半田市立花園小学校) 12月11日(水)授業実施支援(名古屋市立名東高校) 12月17日(火)授業実施支援(愛知県立豊田東高校) 12月19日(木)講座実施支援(生活協同組合コープあいち) 12月27日(水)講座実施支援(清須市教育部生涯学習課) 1月29日(水)授業実施支援(愛知県立田口高校) [授業実施に伴う事務作業支援] 〈資料作成支援〉 7月1日(月)、10日(水)、8月30日(金)、9月2日(月)、10日(火)、10月3日(木)、8日(火)、23日(水)、31日(木)11月6日(水)、12日(火)、19日(火)、21日(木)、25日(月)、26日(火)、28日(木)、12月4日(水)、6日(金)、11日(水)、12日(木)、17日(火)、18日(水)、20日(金)、24日(火)、27日(金)、1月6日(月)、10日(金)、16日(木)、21日(火)、24日(金)、27日(月)、31日(金)、2月13日(木)、3月18日(火)

	〈内容・日程調整支援〉 ７月2日(火)、10日(水)、12日(金)、８月15日(木)、20日(火)、26日(月)、 28日(水)、30日(金)、9月5日(木)、12日(木)、10月3日(木)、8日(火)、 23日(水)、12月11日(水)、13日(金)、18日(水)、24日(火)、1月29日(水)、 10日(金)、16日(木) 〈問合せ対応・相談業務支援〉 7月12日(金)、7月8日(月)、17日(水)、22日(月)、23日(火)、25日(木)、 26日(金)、31日(水)、8月5日(月)、6日(火)、22日(木)、23日(金)、 27日(火)、9月19日(木)、10月17日(木)、18日(金)、11月11日(月)、 19日(火)、1月10日(金)、23日(木)、27日(月)、29日(水)、31日(金) 2月4日(火)、5日(水)、6日(木)、10日(月)、12日(水)、17日(月)、 18日(火)、21日(金) 〈ヒアリング等作成支援〉 ８月15日(木)、９月6日(金)、9日(月)、19日(木)、11日(水)、24日(火)、 20日(金)、10月11日(金)、25日(金)、11月12日(火)、25日(月)、 12月3日(火)、6日(金)、11日(水)、17日(火)、13日(金)、20日(金)、 24日(火)、1月7日(火) 〈担当者打合せ〉 5月16日(木)、6月10日(月)、12日(水)、19日(水)、7月3日(水)、 8月20日(火)、9月2日(月)、６日(金)、26日(木)、10月17日(木)、 18日(金)、11月27日(水)、1月21日(火) 〈報告書作成支援〉 1月6日(月)、7日(火)、10日(金)、15日(水)、16日(木)、21日(火)、 24日(金)、27日(月)、31日(金)、2月4日(火) 、6日(木)、17日(月)、 18日(火)、20日(木)、21日(金)、24日(月)、3月3日(月)、4日(火)、 5日(水)、7日(金)、10日(月)、11日(火)、12日(水)、13日(木)、14日(金)、 17日(月)、18日(火)、19日(水)、20日(木)24日(月)、25日(火)
資金	2,123,911円(外部資金)
協働パートナー	愛知県環境部、NPO法人アスクネット他
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	本事業を通して、主に学校の、環境教育・学習を実施できる講師の紹介、授業づくりに対する相談のニーズが非常に高いことを把握した。また紹介した講師から、学校とマッチング可能な本事業に対する期待の声が寄せられた。そしてコーディネートする専門スタッフが配置されていることへの安心感が両者のアンケートから読みとれた。長野県松本市、岐阜県もマッチング、講師派遣、コーディネートに関する政策を持っている。しかし、それぞれ課題があるようだ。愛知県の取組にもコーディネーターのスキルアップ、依

	頼件数の増加、紹介できる講師の発掘、お互いが納得し満足できるマッチング、費用の負担など課題は多々ある。課題を改善し、システムの質をあげ、他地域に広がり、豊かな環境教育・学習が実践が促進されるための参考事例となるよう伴走、支援する。

ｖ協働政策形成事業「生物多様性の保全による都市部の緑化推進―地域性苗木の広域展開―」支援(継続)	
目的	多様な主体の協働による、地域に自生していた郷土種を利用した植生回復を行う。
事業概要	名古屋市内の公園等でNPO等が採取した郷土種の種や枝を、育成技術を有する企業が育て、協働で植樹を行う。EPO中部は資金調達、企業連携、広域展開、事務局運営支援等を行う。
事業内容	協議会において、今年度の事業計画・予算の検討、昨年度の報告書作成作業支援を行う。今年度はNEXCO中日本に預けている地域性苗木の植樹を主な事業とし、植樹した後のモニタリング結果を共有しながら、本事業全体の検証作業を行っている。 [協議会開催] 5月10日(金)第1回郷土種子協議会 8月19日(月)第2回郷土種子協議会 1月27日(月)第3回郷土種子協議会 [植樹等事業] 3月16日(日)東山の森での植樹 [事務局支援業務] ５月10日(金)会議録、平成24年度報告書の作成 7月9日(火)郷土種子報告書作成 7月19日(金)郷土種子報告書作成 7月23日(火)郷土種子報告書作成 8月15日(木)事務局打合せ 8月21日(水)郷土種子議事録作成 10月30日(水)NEXCO中日本大岩氏打合せ 12月26日(木)郷土種子報告書打合せ 12月27日(金)郷土種子報告書最終確認 1月6日(月)郷土種子報告書入稿 1月10日(金)郷土種子報告書報告・納品・連絡・送付 1月20日(月)郷土種子協議会資料作成 1月28日(火)郷土種子協議会議事録作成 2月4日(火)郷土種子協議会議事録修正・連絡
資金	外部資金なし
協働パートナー	郷土種子を活用したなごやの緑化及び生物多様性保全推進協議会
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	2009年にスタートさせて今年で5年となる。育成した苗木の植樹、植樹後のモニタリ

	ングが主な事業となっている。併せて、5年間の一連の流れ、成果のまとめと、協働実施した価値を検証する時期となっている。まだ育成した苗木が残っているが、来年度には全て植樹を終わらせ、モニタリング結果を踏まえての事業及び協働の検証を行う。

(3)拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

①環境学習施設ネットワーク会議	
目的	中部管内における環境学習施設の今後のありよう及びESD推進拠点としての役割を共有する。
事業概要	中部７県内の環境学習施設担当者、環境教育実践者と現状と課題を昨年度の成果を踏まえ、今後の環境学習施設の役割・機能を明確にする。中部７県ESD会議の分科会の一つ「今後の環境学習施設の機能」として実施し、2014年に向けて何らかの提案ができる会議とする。
事業内容	トヨタ白川郷自然学校、NPO法人白川郷自然共生フォーラムとの協働により事業を実施した。事前打合せ、企画検討、ゲスト調整、広報、報告書の作成を支援した。 [実施内容] 日時：9月20日(金)11:00～17:00 場所：トヨタ白川郷自然学校 参加者：28名(25団体) 〈プログラム〉事例紹介とESDワールドカフェ ・事例報告(11:00～11:15) ・プログラム①プレゼンテーションと問題提起(11:15～12:00) 今後の環境学習施設の役割とはどうあるべきか。ESD2014 を受けて環境教育の実践者、施設担当者４氏が「拠点の役割」「学校との連携」「森林環境教育」「ESD2014」について、事例報告、それぞれの考えを発表した。 ・プログラム②ESDワールドカフェ(13:00～16:00) 持続可能な社会を実現するために、今後の環境学習・教育はどのような実践をすべきか。５グループ、３テーマ、４ラウンドのワールドカフェ形式で討論し、課題と提案と共有をした。 [事前準備等] 7月12日(金)企画会議 8月1日(木)企画作成、講師依頼 ８月21日(水)企画作成、講師依頼 8月30日(金)企画会議 9月3日(火)・10日(火)広報支援 [実施後の業務] 9月25日(水)参加者アンケート集計・報告書作成支援

	1月28日(火)報告書完成 ※詳細については別添資料６「環境学習施設ネットワーク会議報告書」参照
協働パートナー	中部７県の環境学習施設担当者、各自治体環境教育担当者、環境教育実践者(事業者、NPO/NGO、個人など)
評価指標・方法	指標：環境学習施設の役割、機能の明確化 方法：ステークホルダーとスタッフによる事業評価
成果・評価	中部7県の環境学習施設の担当者が集まり、４の事例とESDについての最新情報の提供、５グループ、３テーマ、４ラウンドを実施した。公設公営、民設民営、公設民営など多様なスタイルがあるが、その特色を活かし、いかに環境教育・学習を展開していくか、現状の課題はなにか、来館者をどう増やしているか、といった意見交換を行った。ESDについても取り組んでいる施設、これから実施しようとしている施設、実施する予定のない施設とそれぞれであったが、今なぜESDが必要なのか、環境学習施設では何が出来るのかについては共通の認識を持つことができた。このような、環境学習施設の持つ課題を共有し、お互いのスキルや経験、プログラムについての情報交換をする機会は、今後それぞれの施設のサービスの質を高めるために必要である。

(4)環境教育等促進法の支援

①環境教育等促進法に基づく支援体制の構築

愛知県「愛知県環境教育等推進協議会」「愛知県環境学習コーディネート事業」、名古屋市「環境ひとづくり懇談会」など、環境教育等促進法の地域での施策展開の協議等に参加した。他、自治体の環境学習担当、また環境学習施設担当者から環境教育促進法の拠点認定や、NPOとの協働による環境学習事業の実施に関する相談や相談があった。企業やNPO等から今後の環境学習についての国の考え方や、特に「協働」という観点での事業展開についての問合わせが多く、事例等を紹介した。企業からは、社員参加が可能なNPOの紹介のの相談が多かった。また、下記のように、名古屋市の環境教育施策である「なごや環境大学」に積極的参加をし、「協働」による環境教育推進体制の支援を行った。

行政、企業、NPO等主体ごとの環境学習については、地域では多く展開されており、今後、行政とNPO、企業とNPO,自治体と行政とNPOといった協働による質の高い環境学習の実践が求められていることが、相談や問合せから把握できた。EPOの情報機能、つなぐ機能をさらに活用して、地域に多様で質の高い環境学習の実践がされるよう支援しつつ、EPO自体の「コーディネートの質、専門性」を高めていく。

②協働による環境学習事業(なごや環境大学事業支援(継続))	
目的	環境学習を主軸にした多様な主体の学びの場づくりの支援。
事業概要	多様な主体による「まちじゅうがキャンパス」をキャッチコピーとした、多様な主体による開かれた環境学習事業、ESD事業であり、EPO中部は、多様な主体の参画・協働の促進、企画の質と量の向上、運動性の強化、多様な主体の参加及び協働関係の向上、他地域に類似事業の展開がなされるよう支援する。

事業内容	今年度のなごや環境大学事業の検討、各チームの進捗状況の確認共有、成果評価を支援した。特に、ESDユネスコ会議や、10周年に向けて、これまでのなごや環境大学の成果をどう検証していくかについての協議を始めた。 4月19日(金)幹事会 5月27日(月)総会 5月14日(火)講座チーム会議 7月5日(金)代表者会議 7月8日(月)共育講座審査会 9月3日(火)講座チーム会議 10月30日(水)代表者会議 11月11日(月)全体会 12月11日(水)共育講座審査会・講座チーム会議 2月28日(金)人事に関する打合せ 3月28日(金)幹事会
協働パートナー	なごや環境大学実行委員会(企業・NPO/NGO、学識者等)
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	なごや環境大学は2015年に10周年を迎える。そして来年度はESDユネスコ会議があり、なごや環境大学のこれまでの成果を社会化、評価する機会がある。今年度から代表者会議では、これまでの９年間のなごや環境大学の成果を検証し、次の段階をどう描くかについての議論を始めた。多様な主体の持ち寄りで構成されている、なごや環境大学そのものが「協働」であり、「ESD」であるので、EPOにとっては「協働」の重要な事例となる。多くの「協働取組」が抱えている、組織基盤の脆弱さ、地域の巻き込み、安定した資金調達といった点はどう評価されるか、を明らかにし、他県、他自治体でも同様の環境学習、ESDの仕組みを提案できるよう伴走する。

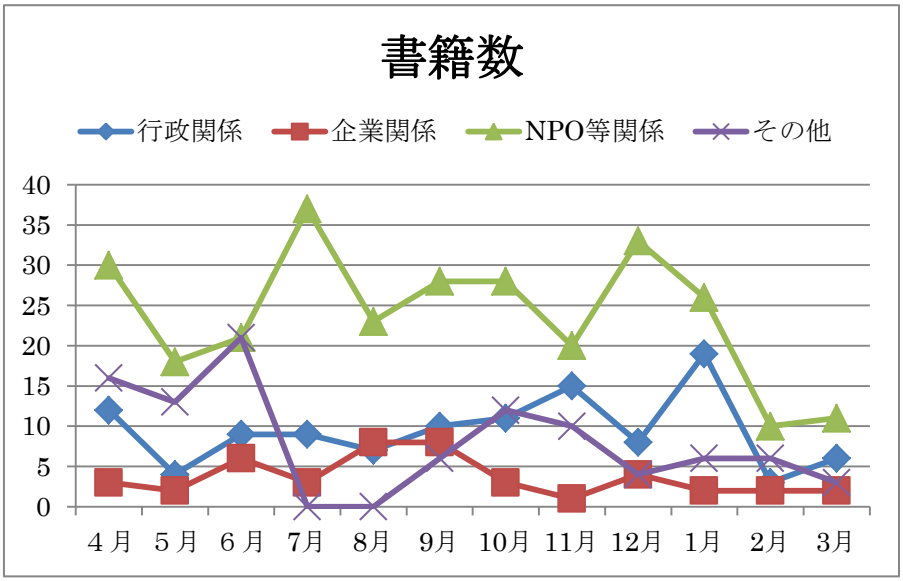
(5)Web サイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務

Webサイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務	
目的	協働事業を促進及び支援する情報収集・提供を行う。収集した情報は、協働促進のために分析、可視化し、蓄積する。民間団体等が環境政策の提案をするための情報提供をする。
事業概要	①環境情報の収集等 環境協働(環境保全に関する市民、環境NPO/NGO、行政、企業といった様々なセクターが連携・協力して参加・実行する事業をいう)の推進に資する情報を収集し、整理・提供する。また、行政等から環境情報資料等を収集・整理し、提供する。自治体の各種審議会等への参画をし、協働政策等の情報収集・提供する。講座・ワークショップの支援等をし、協働事例の紹介、情報提供、意見収集等を行う。

	②環境協働事例の分析 中部管内の地域の環境協働事例を収集し、協働に至るプロセスについて分析を行い、他の業務に資するよう整理等を行う。 ③ホームページの維持管理 業務を通して得られた情報や協働促進のための情報等を収集・整理し、ホームページに掲載する。ホームページの更新は、原則として月２回以上行うこととし、ホームページのレイアウトなどは提供する情報に併せて適宜変更し、来訪者が分かりやすいものにする。より活用されやすいホームページとなるよう改善する。 ④メールマガジンの原稿作成 業務を通して得られた情報等を発信するため、メールマガジン(平成25年5月分から平成26年4月分まで)の原稿を作成する。
事業内容	①環境情報の収集等 環境省、及び中部7県の自治体、企業、NPO等から送付されるチラシや報告書等、利用者のニーズによる資料収集、自治体や企業、NPO、大学の会議やワークショップ等に参加しての情報収集等、多様な手段で情報収集を行った。特にESDについてのニーズが多く、環境省、文部科学省、ACCU、全国の取組、中部7県の取組に関する報告書、書籍、イベント情報等を取り寄せた。 ア EPOに送付される資料の整理等 〈資料入力作業〉 4月1日(月)、3日(水)、5日(金)、12日(金)、19日(金)、26日(金) 5月10日(金)、17日(金)、21日(火)、24日(金)、28日(火)、30(日) 6月24日(月)、25日(火)、26日(水)、 7月29日(月) 8月26日(月)、27日(火)、29日(木)、30日(金) 9月2日(月)、10日(火)、24日(火)、25日(水)、27日(金) 10月1日(火)、2日(水)、3日(木)、4日(金)、7日(月)、15日(火)、24日(木)、28日(月) 11月11日(月)、18日(月)、25日(月) 12月2日(月)、9日(月)、17日(火)、18日(水)、24日(火)、27日(金) 1月15日(水)、21日(火)、29日(水) 2月3日(月)、6日(木)、14日(金)、27日(木) 3月18日(火)、20日(木)、25日(火)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行政関係	12	4	9	9	7	10	11	15	8	19	3	6	113
企業関係	3	2	6	3	8	8	3	1	4	2	2	2	44
NPO等関係	30	18	21	37	23	28	28	20	33	26	10	11	285
その他	16	13	21	0	0	6	12	10	4	6	6	3	97
合計	61	37	57	49	38	52	54	46	49	53	21	22	539

※3月25日時点



イ　各種自治体審議会、企業団体等への出席による情報提供・収集

［自治体］

5月8日(水)名古屋市緑政土木局指定管理者選定委員会

5月27日(月)名古屋市環境教育に関する方針計画についての打合せ

7月19日(金)名古屋市環境ひとづくり懇談会

7月26日(金)名古屋市緑の審議会街路樹部会(第2回)

8月5日(月)名古屋市環境ひとづくり懇談会

8月23日(金)名古屋市指定管理選定委員会

8月25日(日)名古屋市緑のまちづくりフォーラム

8月27日(火)三重県ごみゼロプラン推進委員会

9月2日(月)名古屋市公園指定管理者選定委員会

9月11日(水)愛知県自然環境課あいち生物多様性戦略2020推進委員会

10月11日(金)愛知県三河湾再生協働ワークショップ

10月22日(火)愛知県地球温暖化防止活動推進委員会研修打合せ

12月2日(月)愛知県地球温暖化防止活動センター研修企画及び準備

12月3日(火)愛知県地球温暖化防止活動推進委員研修実施

12月26日(木)名古屋市緑の審議会出席

1月24日(金)愛知県環境審議会廃棄物部会

	1月29日(水)名古屋市第2回環境人づくり懇談会、 1月30日(木)名古屋市緑の審議会 2月3日(月)愛知県食と緑の審議会打合せ 2月4日(火)愛知県環境教育等推進協議会 3月4日(火)三重県国土利用計画審議会、三重県ゴミゼロ推進室、地球温暖化対策課ヒアリング 3月8日(土)北陸再生可能エネルギーセミナーIN福井 3月18日(火)奈佐の浜プロジェクト　3県１市意見交換会 3月20日(木)愛知県自然環境課あいちミティゲーション部会、生態系ネットワーク部会合同部会 3月27日(木)愛知県地球温暖化防止戦略2020推進委員会 ３月31日(水)愛知県自然環境課あいち生物多様性戦略2020推進委員会 ［企業］ 6月26日(水)環境パートナーシップ・CLUB自然共生分科会 8月23日(金)TOTO・コメリ助成金セミナー 10月2日(水)パナソニックエコシステムズ(株)絵画コンクール審査会 10月29日(火)豊田自動織機㈱CSR事業に関する打合せ 12月10日(火)豊田自動織機㈱CSR事業について打合せ 12月11日(水)三重銀総研NPOサポートファンド選考委員会書類審査 12月20日(金)三重銀総研NPOサポートファンド選考委員会プレゼンテーション ［NPO・大学等］ 4月23日(火)環境デーなごや実行委員会 9月3日(火)きらきらラジオ出演(いなべ市市民活動センター) 9月9日(月)名城大学TLIFESワークショップ 10月5日(土)藤前干潟ふれあいデー 11月２日(土)想いでつなごう！おりがみアクションタイムカプセルプロジェクトin東山2013 11月30日(土)雑木林研究会フォーラム 1月17日(金)フェアトレードなごや・ネットワーク総会 1月24日(金)認定NPO法人環境市民主催「その表示、大丈夫ですか？経営リスクになる　グリーンウォッシュをなくそう　～適切な環境コミュニケーションを築くために～」協力、参加 2月22日(土)NPO法人地域の未来・志援センター「情報交流会「閉じて、開く！コラボレーションの可能性」共催、参加 3月3日(月)愛知教育大学エコプロジェクト報告会参加 3月18日(火)環境保全団体との意見交換会(奈佐の浜プロジェクト)

3月24日(月)「愛知教育大学環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」外部評価作成、名古屋わかもの会議出席

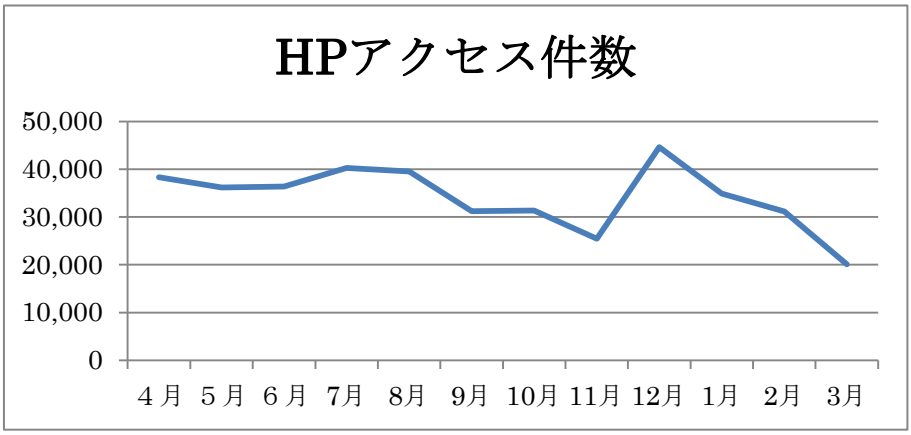
②環境協働事業の分析

サステナブルビジネス事例調査において、調査対象10件を選定し、調査を実施し、報告書をまとめた。また協働取組推進事業において、中部地域採択団体3取組の地域支援事務局を担い、事業進捗、ステークホルダーの関係性構築等の視点でまとめた「可視化ツール」を作成した。「可視化ツール」については、ホームページに掲載している。

③ホームページの維持管理

昨年度と比較してアクセス数がホームページアクセス数409,546件(4月～3月)であり、目標値の370,000件を超え、昨年度比15%増(昨年度357,442件)である。今年度HP改善のための企画書の作成及びHPデザイナーとの打合せを行い、協働及びESDを中心にしたHPに作り直した。日常的なイベント紹介を可能にし、事業の報告を随時行うえるようにした。情報提供状況に併せて、週1～2回程度の更新を行っている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	38,329	36,200	36,367	40,273	39,536	31,224	31,332	25,475	44,650	34,901	31,145	20,114	409,546



※3月25日時点

[HP改善のための企画づくり・打合せ]

4月15日(月)、5月20日(月)、6月17日(月)、7月3日(水)、19日(金)
12月27日(金)、1月6日(月)、7日(火)、8日(水)、10(金)、14日(火)、
16日(木)、21日(火)、2月4日(火)、5日(水)、10日(月)、12日(水)、
17日(月)、19日(水)、20日(木)、24日(木)、25日(火)、28日(金)、

	3月3日(月)、5日(水)、6日(木)、7日(金)、10日(月)、11日(火)、12日(水)、 20日(木)、24日(月)、25日(火) [HP更新] 5月1日(水)、8日(水)、6月5日(水)、11日(火)、14日(金)、7月5日(金)、 16日(火)、22日(月)、29日(月)、30日(火)、31日(水)、8月2日(金)、 8日(木)、19日(月)、20日(火)、22日(木、26日(月)、29日(木)、 9月4日(水)、17日(火)、18日(水)、20日(金)、25日(水)、30日(月)、 10月1日(火)、7日(月)、10日(木)、15日(火)、22日(火)、11月1日(金)、 14日(木)、18日(月)、21日(木)、12月12日(木)、26日(木)、1月6日(月)、 9日(木)、16日(木)22日(水)、24日(金)、30日(木)、2月3日(月)、6日(木)、 12日(水) 、13日(木)、17日(月)、3月3日(月)、12日(水)、25日(火) [情報収集] 4月1日(月)、7月1日(月)、2日(火)、9月26日(木)、27日(金) **④メールマガジンの原稿作成** 中部７県で開催されている、行政、事業者、NPOから届けられるイベント情報を中心に情報を提供のための原稿の作成をした。毎月１回更新した。 登録者数　724部(3月25日時点) であり、昨年度比4%増(昨年706部)である。 〈発行日〉 4月2日(火)、5月13日(月)、6月14日(金)、7月9日(火)、8月8日(木)、 9月10日(火)、10月8日(火)、11月15日(金) 12月10日(火)、1月7日(火)、 1月14日(火)、2月12日(水)、3月13日(木) 〈メルマガ原稿作成〉 5月2日(木)、7日(火)、6月24日(月)、26日(水)、7月2日(火)、5日(金)、 22日(月)、25日(木)、26日(金)、29日(月)、30日(火)、31日(水)、 8月2日(金)、8日(木)、19日(月)、20日(火)、21日(水)、29日(木)、 9月2日(月)、4日(水)、17日(火)、20日(金)、24日(火)、30日(月)、 10月1日(火)、2日(水)、3日(木)、7日(月)、11月1日(金)、5日(火)、 12月3日(火)、4日(水)、6日(金)、1月6日(月)、7日(火)、8日(水)、 2月3日(月)、6日(木)、25日(火)、3月3日(月)、5日(水)、27日（木） 〈メーリングリスト廃止作業〉 7月16日(火)、22日(月)
協働パートナー	協働事業を実施している主体、運営会議委員等
数値目標	環情報収集、整理、提供件数：470件(昨年度459件) HPアクセス数：370、000件(昨年度357、442件)

評価指標・方法	方法：ホームページ、メルマガ利用者数の把握
成果・評価	今年度は「情報の強化」を目標におき、ホームページの改善を行った。過去の協働事業やESD事業を掲載し、また第3期ビジョン及び当年度の事業計画、事業実施状況、報告を掲載し、現状何をしているのか、何を実現しようとしているのかを分かりやすく伝えられるようにした。今年度はEPOが持っていたメーリングリストをすべて廃止にしたため、これまで培ったネットワークを活かした事業展開、イベント情報の提供ができなくなった。ブログやフェイスブック等独自のツールの検討が必要である。 ①環境情報の収集等 環境情報収集、整理、提供件数は539件（4月～3月）であり、目標値の470件を超え、昨年度比17%増（昨年度459件）である。 NPO、自治体からの情報提供が多く、特に今年度はESDに関する内容が多かった。企業に関する情報収集増のための方策検討が必要である。 ②環境協働事例の分析 サステナブルビジネス事例調査で把握した実態や課題、協働取組推進事業に伴走して把握した事業及び組織課題を把握した。①組織基盤の強化、②地域の巻き込み、③資金調達が共通の課題であったが、課題改善の具体的方策として、公共性と経済性の指標づくりと、公共性と経済性を両立させる事業計画と事業マネジメント、経営の専門家の投入(プロボノ)、事業マネジメントを支援するプロセスマネージャーの伴走を検討した。協働取組推進事業については、作成した「可視化ツール」をホームページ掲載している。 ③ホームページの維持管理 ホームページアクセス数409、546件(4月～3月25日)であり、目標値の370、000件を超え、昨年度比15%増(昨年度357、442件)である。利用者から届くチラシ、メールによる情報を随時ホームページに掲載している(原則月2回以上)。また、今年度「協働取組」「ESD」をメインにしたホームページにリニューアルをした。次年度はPRをしつつ、情報収集、事例集をして質の高いHPを目指し、利用者の増大を目指す。 ④メールマガジンの原稿作成 毎月1回発行。計12回作成。登録数732部（3月25日時点）。昨年706部、昨年度比4%増である。利用者から届くチラシ、メールによる情報を、発行日の１週間まで収集し、原稿にしている。登録者の伸びが悪いので、メールマガジンを読み物にする工夫や、情報の提供方法の改善が必要である。

(6)地元の様々な主体が交流する機会の提供

①中部7県ESD会議	
目的	各事業を通じて、市民、NPO・NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体が交流し、環境保全に向けた意見交換等を行えるような場をつくる。特に、北陸と長野地域でのESD普及啓発、推進と中部7県のESD実践者の経験交流のための場を設ける。
事業概要	今年度のESD事業の成果の集大成を社会化する場として、中部7県のマルチステークホルダーとEPO中部ESD事業の成果共有及び今後本地域で実施すべきESD事業について検討する。テーマは「地域のESD実践を普及拡大させるためには」である。MSH(マルチステークホルダー)ダイアログ協働とESDのESD分科会として開催した。
事業内容	開催日程・場所の調整を行い、平成26年1月17日(金)、ウィンクあいちで行うことを決定した。ESD人材育成事業に関わった中部7県のESDに関する多様な立場のステークホルダーをゲストに、各地域でのESD状況や実践内容、今後の展開について共有し、今後のさらに根付くための意見を出し合う場を作ることを目的に企画を立て、実施した。運営会議委員及び中部7県におけるESD事業関係者を中心に広報を行い、参加者を得た。 ［実施内容］ タイトル：MSHダイアログ　協働とESD ダイアログ③ESD－学校と地域の連携によるESD人材育成― 日時：1月17日(金)13:00～17:00(ダイアログ13:15～16:15) 場所：ウィンクあいち会議室 参加者：32名 内容：中部7県で実施されたESD人材育成事業に関わった、教員、教育委員会、学識経験者、NPOをマルチステークホルダーとし、コメンテーターに小中学校の教員2名、NPO1名を招き、「ESD人材育成事業」の成果を活かした地域でのESD展開等について対話を行った。 出演者：各県ステークホルダー７名　コメンテーター：３名　モデレーター1名 ［事前準備］ 12月17日(火)企画検討会議、出演者交渉、広報媒体作成、広報開始 1月6日(月)出演者事前資料作成、企画調整、広報 1月7日(火)出演者の事前資料送付、参加者リスト作成、広報 1月14日(火)当日使用する資料作成、広報、出演者連絡、アンケート作成 1月15日(水)当日使用する資料作成、出演者へのスケジュールや進行マニュアルの送付等 1月16日(木)当日資料作成、出演者との打合せ

	[実施後業務] 1月20日(月)出演者支払計算書等資料整理、報告書作成 1月23日(木)報告書作成 1月27日(月)報告書作成 1月28日(火)アンケート集計 2月6日(木)出演者に報告書内容の確認作業 2月28日(金)報告書完成 ※詳細については別添資料５「「持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議」MSH(マルチステークホルダー)ダイアログ　協働とESD～サステナブルな社会を「本気」でつくる～報告書」参照
協働パートナー	今年度ESD事業に関するステークホルダー
評価指標・方法	指標：参加したステークホルダーの多様性と数、検討後の目標 方法：事業評価
成果・評価	参加者は32名。教員、学識者、教育委員会、行政担当者、NPOなど多様であった。企業の参加者を得られなかったことが課題ではある。 成果は、ESD人材育成事業等ESDに取組む学校、教育委員会とNPO、学識経験者等の、ESDをテーマにした対話の場が設けることができたこと、そして、学校側の意見、地域側の意見を率直にぶつけ合い、お互いの強みを活かし補完しながらESDの授業づくりに取組もうという意志を共有できたことである。学校と多様な地域の主体との連携によるESD授業づくりが、児童生徒、教員、学校、地域の人々にとって気づきが多く、有効であるかについて、各県の報告から明らかになった。一方でこのような授業づくりを継続的に地域で展開し、地域に根付かせるには、ある種のスキームが必要であることが共通認識となった。EPOにできることは、モデル事業の提供と、モデル事業の成果を社会化することである。次年度は、事業自体の支援もあるが、その成果をいかに社会化し、地域に根付いた教育の仕組みとして残るように検討を進めることが求められている。

②北陸EPO運営会議事業支援(継続)	
目的	北陸三県の協働のプラットフォームの構築。
事業概要	3年目となる本事業だが、再生可能エネルギーについての学習会、経験交流会の成果を活かし、再生エネルギー普及啓発及び事業化に向けての展開を図る。
事業内容	「木質バイオマス」による再生可能エネルギーの地域循環を可能にするしくみについて情報を得て協議する下記交流会を各県で実施した。そのための会議を5回実施した。今年度は「事業化」に向けた課題の検討を行うこととし、北陸EPO運営会議委員がコーディネーターとして動き、北陸地域で再生可能エネルギーによる地域エネルギーの自立化を目指している主体との関係性づくりを行った。

	[運営会議] 6月3日(月)北陸運営会議(石川) 7月11日(木)北陸運営会議(石川) 9月5日(木)北陸運営会議(石川) 10月7日(月)北陸運営会議(石川) 3月8日(土)北陸運営会議(福井) [交流会] 11月15日(金) 北陸運営会議主催 「2013北陸三県里山地域バイオマス活用セミナー(石川)」 11月23日(土) 北陸運営会議主催 「2013北陸三県里山地域バイオマス活用セミナー(富山)」 3月8日(土)　北陸運営会議主催 「2013北陸三県里山地域バイオマス活用セミナー(福井)」 ※詳細については別添資料7「北陸再生可能エネルギー協働事業化セミナー報告書」参照
協働パートナー	北陸三県におけるEPO中部運営会議委員
評価指標・方法	指標・方法については協働主体と検討する。
成果・評価	北陸地域での多様な取組の現場を見て、実施している組織と協議をし、共通の課題はあるものの、それぞれの地域性やシーズ、ニーズに合った事業展開、仕組みづくりをしており、それぞれの経験、ノウハウ、ネットワークを重ねることで、改善策を見つけ出すことができてきている。交流会参加者にとって有益な情報を提供する交流会に地域ニーズは高いようだ。いかにニーズに合う企画にしていくか、質の高い交流会にするか、そのための支援策をどう提供するかが試される。

(7)施設の維持・管理

①施設維持管理業務　②来客等対応業務	
目的	協働事業を促進及び支援する施設サービスの提供(相談対応など)を行う。
事業概要	①施設維持管理 開館日：月曜日～木曜日 閉館日：金曜日(情報収集・整理日) 休館日：土・日曜日　祝日、旧盆〔8月12日(月)～8月14日(水)〕 年末年始〔12月28日(土)～１月5日(日)〕 開館時間：10:00～19:00　年間事業予定日数：241日 オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理(防災管理士の配置) 開館日の来客等対応業務 ＊来館、電話・メール等の適切対応と記録化 ＊スタッフ１名の常駐

	＊来客者数、電話件数及びその内容などの記録化
事業内容	**①施設維持管理** 昨年度と比較して、来館者数7.4％増、問合せ件数68.2％増、スタッフ体制69.4%増である(3月25日時点)。来館者の多くは、ESD関連の情報収集、相談を目的にした方が多い。スタッフ体制については、協働取組を担当する正社員2名、ESD人材育成を担当する正社員1名、事業サポートアルバイト1名増員しスタッフ体制を強化した。他、資料整理、事務所内整備、会計処理・決算書作成など円滑に業務を行った。またESD普及啓発のため、EPO封筒及びスタッフ名刺にESDプロジェクトのロゴマークを使用することとした。秋以降協働取組支援事業、ESD人材育成事業支援の推進とオフィス外業務が多かったため、事務所での来客相談対応、会議実施が減っている。11～12月にはインターン(愛知県や全国EPOネットワーク)が派遣され、明確な役割分担のもと業務を実施している。ビルの防災訓練に参加した(11月15日(金)。 **②来客等対応業務** 環境学習、ESDに関する相談業務が多く、対応するための情報収集に時間とエネルギーを必要とした。またイベントの広報依頼や講師紹介に関する内容も多く、つなぐことの重要性を痛感した。自治体のESD施策や企業のCSR活動についての相談も多く、丁寧かつ多様な情報提供、相談応対ができるよう専門性を高める必要性がある。

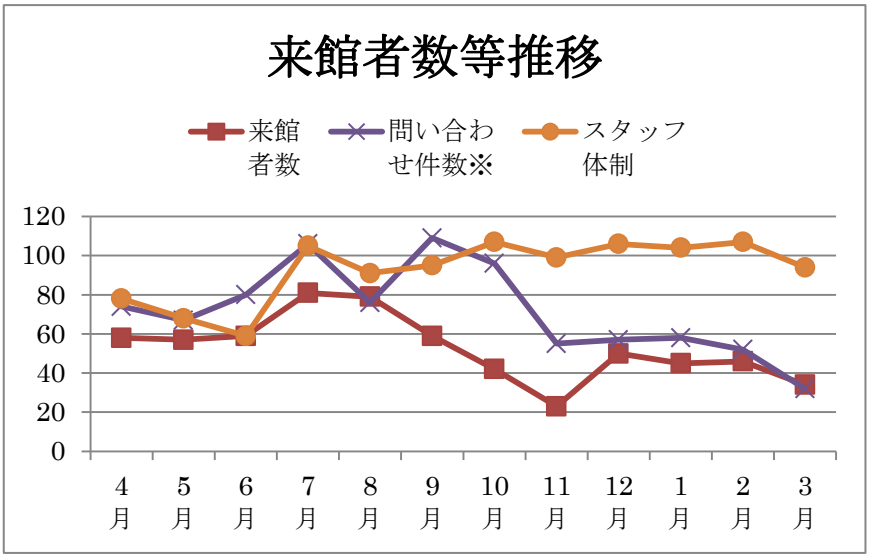
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開館日数	21	21	20	22	19	19	22	20	19	19	19	16	237	19.8
来館者数	58	57	59	81	79	59	42	23	50	45	46	34	633	52.8
日平均	2.8	2.7	3.0	3.7	4.2	3.1	1.9	1.2	2.6	2.4	2.4	2.1	2.7	2.7
問い合わせ件数※	74	67	80	106	76	109	96	55	57	58	52	32	862	71.8
日平均	3.5	3.2	4.0	4.8	4.0	5.7	4.4	2.8	3.0	3.1	2.7	2.0	3.6	3.6
スタッフ体制	78	68	59	105	91	95	107	99	106	104	107	94	1113	92.8
日平均	3.7	3.2	3.0	4.8	4.8	5.0	4.9	5.0	5.6	5.5	5.6	5.9	4.7	4.7

※問合せ件数は、来館・電話の合計数

※12月1-6日全国EPO連絡会インターンスタッフ数含む

※詳細については別紙参照

※3月25日時点

	
協働パートナー	協働に関する情報及び相談ニーズのある団体、個人等
数値目標	来館者数：600名(昨年度623名) 来館相談・問合せ件数：550件(昨年度520件)
評価指標・方法	指標：来館者数、来館・電話・メールによる相談・問合せ件数 方法：日報の集計
成果・評価	開館日数：237日(4月～3月25日) 来館者数：633名(4月～3月25日　目標値600名　昨年度623名) 問合せ件数：862件(4月～3月25日　目標値550件　昨年度520件) 来館者数7.4%増、問合せ件数68.2%増、スタッフ体制69.4%増である。 [情報収集提供] 今年度の来館者は、1日平均2.7人、問合せ件数は3.6件である。年間を通してESDに関する資料、チラシが多いため、ESDについて知りたいという来館者が多かった。また、行政や企業の担当者が、NPOの活動内容やイベント情報を得たいというニーズも高かった。また環境省、文部科学省のESDに関する動向について知りたいという問合せも多かった。 [相談業務] 今年度はESDに関する相談がほとんどであった。教員、教育委員会、行政担当者、企業、NPO/NGO、PTA、多様な方から電話、来館、メールにて相談があった。「ESDの授業づくりはどうしたらできるか」「ESDと環境教育は何が違うか」「研修を依頼できるか、もしくは講師紹介していただけないか」「企業が取り組むESDとはどんなことか」「ESDの認知度を向上させるためには何をすればよいか」「愛知・名古屋は世界会議に向けてどのように動いているのか」など、多岐にわたる相談内容であった。 他、企業からは「環境に関するCSR活動をしたいがどのようなものがあるか」「企業が参

	加できる環境活動、NPO活動はあるか」、行政からは「カーボン・オフセットはどのように仕組みを作ればよいのか」「協働での取組にはどんなメリットがあるのか」といった内容の問合わせが多かった。他、環境省の施策情報や内容、助成金情報や助成金申請書の書き方についての問合せ対応をした。

(8)業務実施計画の作成

①業務実施計画の作成	
目的	業務を円滑に実施するために作成する。
事業概要	業務計画書の作成、なお本業務が協働取組であることを鑑み、計画実施によって達成しようとする目標や、事業に参加する各主体の役割分担を明確にする。
事業内容	平成25年度業務実施計画書(収支予算書・スケジュール含)案を作成し、運営会議で業務内容を検討し、計画書を策定した。 [作成作業]※仕様書の変更により、業務実施計画の修正を行った。 8月1日(木)、8月6日(火)、8月16日(金)、8月20日(火)、8月28日(水)、9月18日(水)、 3月17日(月)
協働パートナー	全国EPO、環境省、各地方環境事務所
評価指標・方法	指標：会議の実施とその効果、等 方法：関係者による事業評価
成果・評価	仕様書に基づき、業務実施計画書(案)を作成、中部7県のステークホルダーである運営会議委員のヒアリング、運営会議での協議を踏まえて、計画を策定。運営会議委員にプロセスにしっかり関わってもらうことで、業務に積極的に参画してもらえる。 EPOと運営会議委員との協働を可能にするためにも、作成時にいかに関係者と対話をするかが重要となる。

(9)その他

①全国の地方EPO・GEOCとの連携

①全国EPO連絡会議への参加	
目的	全国EPOと連携して、全国EPOネットワークで取り組むべき事業や共通課題の共有及び解決のための意見交換や提案づくりを行う。
事業概要	・全国EPO連絡会への参加 ・全国EPOが連携して取り組むべき課題の共有と事業の検討
事業内容	全国EPO連絡会議出席のための資料作成や、地方EPOとの情報交換などを行った。全国EPO連絡会では、協働取組推進事業やESD人材育成事業について、2014年ESDユネスコ世界会議の動きについて、全国EPO共通に実施する業務についてなど情報共有を行った。また、全国EPOネットワーク事業としてのインターン(EPO北海道より1名)を受け入れた。企業とNPOをつなぐマッチング事業(日本NPOセンター)や地球環境基金説明会(1月17日(金)開催)についての情報共有をGEOC、地方EPOと日々行った。 **[全国EPO連絡会]** 5月28日(水)全国EPO連絡会プレ会議(東京) 5月30～31日(木・金) 全国EPO連絡会(東京)

	5月31日(金)環境教育担当者連絡会議(東京) 11月5～6日(火・水) 全国EPO連絡会(岡山) 2月21日(金)全国EPO連絡会(東京) **[インターン派遣に関する業務]** 11月11日(月) 全国EPO連絡会インターン受入れ準備・打合せ 12月2～6日(月・金) 全国EPO連絡会インターン受入れ [**地球環境基金に関する業務]** 12月4日(水)地球環境基金説明会企画書作成 12月17日(火)地球環境基金説明会企画書作成 12月5日(木)地球環境基金説明会打合せ 12月11日(月)地球環境基金説明会打合せ 12月13日(水)地球環境基金説明会打合せ 1月14日(火)地球環境基金説明会資料作成、広報 1月16日(木)地球環境基金説明会資料作成、広報 1月17日(金)地球環境基金説明会支援 1月21日(火)地球環境基金説明会(1月17日)報告書作成 1月22日(水)地球環境基金説明会(1月17日)報告書作成 1月27日(月)地球環境基金説明会報告書確認依頼 1月28日(火)地球環境基金説明会報告書等資料作成支援 1月29日(水)地球環境基金説明会請求書等資料作成 2月3日(月)地球環境基金説明会実施報告書作成、 2月4日(火)地球環境基金説明会処理業務 2月10日(月)地球環境基金説明会報告書作成その他資料作成 2月26日(水)地球環境基金説明会会計業務 3月3日(月)地球環境基金に関する資料作成支援 3月4日(火)地球環境基金に関する資料作成 ※今年度の説明会は、NPO法人地域の未来・志援センターと協働で実施した。 [**日本NPOセンターGreenGiftProjectへの協力・支援]** 12月13日(水) GreenGiftProject会議(岐阜) 2月3日(月) GreenGiftProject会議(愛知) 2月13日(木)GreenGiftProject契約書作成 2月24日(月)GreenGiftProject会議(長野) 3月29日(土)GreenGiftProject活動参加 やまぼうし自然学校プログラム(長野) 特定非営利活動法人藤前干潟を守る会(愛知) **[その他]** 1月15日(水) 近畿地方環境事務所・きんき環境館との打合せ

	3月7日(金)EPO北海道と地球環境基金協定について打合せ
協働パートナー	全国EPO、環境省、各地方環境事務所
評価指標・方法	指標：会議の実施とその効果、等 方法：関係者による事業評価
成果・評価	環境省が設置した施設として、全国EPOが共通して実施する業務について意見交換をした。今年度は、「協働取組推進事業」「ESD人材育成事業」等EPOネットワークを活用した事業が多かったので、ネットワークの強みを活かし、事業の質を高める、特に評価についての協議を行った。また、地球環境基金、日本NPOセンターGreenGiftProjectなど、全国ネットワーク、拠点の機能を活用した事業を展開した。今後、EPO機能を利用したいというニーズが増え、その際にどう選択していくかが課題となるであろう。EPOネットワークを活用したことによる成果を図る評価の実施が必要となる。併せて、民間の中間支援組織を圧迫しないよう、地域の中間支援との明確な役割分担による協働、民間に引き継がれていくような仕組みの構築が必要となる。

[別添資料]

資料１　協働事業可視化ツール

資料２　ホームページの改善

資料３「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」中部地域支援事務局事業実施報告書

資料４　サステナブルビジネス事例収集等請負業務報告書

資料５　持続可能なコミュニティ形成のためのマルチステークホルダー会議
MSH(マルチステークホルダー)ダイアログ　協働と ESD　～サステナブルな社会を「本気」で創る～報告書

資料６　環境学習施設ネットワーク会議報告書

資料７　北陸再生可能エネルギー協働事業化セミナー報告書

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
　この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料［Ａランク］のみを用いて作製しています。